春城随筆

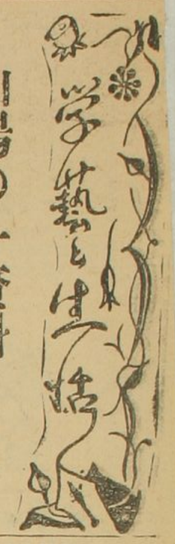
昭和三年二月中浣起草

二

特別
14
1919
399

176664

38- 9185



山陽の一資料

市島春城

山陽の逸事に就て記すべきものが少くないが、最近発見した、未だ全然世に知られてないものがある。此頃、鶴人から一卷の詩稿を示された。展べて見ると、後頭に麻美人に擬した彩色入の婦人の圖があり、その傍邊に石菖浦を盛つた鉢が置かれてあつて、美人はこれを見つめて、清閑憂色を湛へてゐる。この圖に附隨して三家の詩が録してある。皆この美人を思ひやつた圖畫の詩で、詩中の識語に甲戌の年、山陽黄薇に遊んで歸らず、悶絮奈聞を寄る。その婦名美耶とあり、詩中には山陽黄薇の頼浦にあることをいひ、又、石菖は山陽の愛する所であることをもいふてゐる。これ等の事実に依り好事家が山陽の懶事を一幅の卷に收めたものであることが知れた。

◇

識中の筆者は琴浦とあるが、私はまだ其人を知らない。詩を賦した三家も小石と琴浦の外は名を匿してゐるから誰れか知り難いが、大芳山人は識に製意の文人の戯筆であらう。識分好事家は假托のことをやつて人を欺くこともあるから油斷が出來ないが、此卷は假托のことも思へない。其譯は詩の題識は事實と吻合してゐる。山陽采譜を案ずるに甲戌は文化十一年で、山陽三十五歳、此年娶して廣島に隱居してゐる。隱居の目的は、父春水の病を見舞はん爲めで、八月十日京都を發、歸中其他を經て八月廿三日廣島に隱居してゐる。識語に云ふ所は決して假托でなく、正に此の隱居の留守中の事であると、すると、當時此氣の斯人にありさうなことである。

但し山陽が梨影を其室に定めたのは此歳であるけれども、雪花折柳の事があつたとて、不思議もあるまい。所謂美耶なる者の本體は知ることは出來ないが、詩中淀流を回るとあるを見れば、淀花あたりの花柳のものでもあらうか。山陽の暗黑面を知るの一資料である。

◇

自別君來思萬端
避人翔數鄰門
凡上牛腰頭欲無
庭前葉落看無色
×
夢魂纏渺渡層潮
不解年光似轉丸
×
汲泉空餐石菖浦
不獨妾容愁且
×
覺前置瓶賀瑞
郎在黄薇頼浦西

偶得郎書喜且悲
問呼小婢補々語

甲戌之歳鶴山陽遊黄薇不歸其妻耶獨守空閨不堪相思琴其情感賦絶句寄贈　蘆草

鶯雪琴花問沈思
今朝啟書淚山眉
附潮欲寄心頭事
陰慘如多於別時
×
冷枕單衾易惹愁
屏風恁地推詩頭
畫中文是鴛鴦子
偏使回儂羨慕愁
×
岑寂一場無所訴
愁來萬事總關情
傷心獨聽黄昏雨
向夜偏成點滴聲
×
獨凭欄立晚寒
今夜秋眉樣月
樓外雨初乾
夕陽
×
愁來萬事總關情
向夜偏成點滴聲
×
獨凭欄立晚寒
樓外雨初乾
夕陽
×
梨浦嶋郎廻
樓頭所應夢
今夜秋眉樣月

◇

征帆影暗暮烟迷
妾亦買舟洞庭流
消盡直到海西頭
×
恨妾不如舟上月
×
悄然面對一燈殘
扇裏覓宵辰砂朱
空室寂々何所有
郎曾愛石菖浦
×
空房一枕不堪海
×
雖奈天驕厭易窮
愁夢床頭誰喚覺
×
風吹落葉横窓壁
郎馬登山々有險
×
郎舟浮海々多潮
妾身何恨愁憔悴
但恐此輕行路難
×
忙析瑤鐵絮慰
偏期未識定何時
了案不解愁思切
挑得豆花類笑嬉
甲戌冬　小石龍題

日本琴の招載
余の他者
郎の不好也

No. 2

酒色と聲をつけ五合樽になみ〳〵とつがせて隅まで一と口に
呑もつゞけざっと飲みほすうまさ酒も云はず茶も出ず茶の代りの
水〳〵飲みて陽盛中で赤い〳〵一杯息つぎ〳〵陽酒の
爺　みなみくと面足をつぎ足〳〵呑出〳〵好意と共の
賤しさ　なら忘れずとげる樽酒の好〳〵みさかゝる梅妙の器
〻まるつきかと祭り
コップ酒と言ふやうになり〳〵と明治も十年以後のてかそのの
前を　世地方(三河)に地酒の名〳〵つまり杯の高を丸く玉にして祭りつるす)
手をつけ　野酒の名〳〵　樽を備えつけ　中〳〵　年月の
酒ミの毎年　酒の新樽　又　費家をハくゞりと中〳〵て　梅前焼　風の
如き一合位の　親子徳利　煙むせて　考えを　樽の　廻るぐ
ら世で　酒を　加えて　由〻　なり

者　酒屋と申すなる　現在　世田寄物室(寄物の者)の先代
年〻昭和の盛が家業　時年　は前　飲食　一業と
り　好酒陽　醸造　酒盗　土の　稼業　〻〻　世田業　研究の
特〻　又　世の　好酒家　酒　研究する　逸る　みな世の　現代
前記　寄物室　(昭和　勢　酒を　来り　なる)　老　ゞ　も　先
代　者　四　好酒家　なるゞ　先代　得意の　後　自己の　業　研を　立
酒　業　研究　酒　色陽　酒　寄物　研究　酒　面に　考ゞいろ
は　金のいろなるず　又　殿みレと　刻レ　(現代　洋酒　業なるゞ　始ゞ)　て　研究
く　なるず　十五年前　業　記　研究　酒　迫る　水　醸造　研究　つと
な　現　俗五　世　研究　業　之　業　老人　を　なゞ　せゞ　樽　酒の
業　も　活きた　面白　世　研　も　なる　追　て　研　年　達　する　なる　加

十二行

○普選の普選に就ては政治政味をもつて至善と思ふ味があるも而もあり、全体普選法は民政党政府の発布したものであるのに、反動党の政府と撞着して実行された。四家百年の為めに法律の神聖を保つべき筈なるに拘はらず、公平を主とするけれども四分五裂から（政府内かつて）公平を期すべき筈なるに、政府は霞が関の干渉圧迫を加へ先つ此の百年の法を蔑視するに於て遂に不満の怪文書の出きい共一端を語るものであつて、無責任と称する言論を束縛し、地方官に数次秘密の訓令をなしたことは云はまほしきに、行くゝは現内閣はどうかと云

十二行

あと考る全部の結果は今日文化の中枢なる東京市政の二市に於ては民政党多数を制しあるの政策の是非を理解するとの点に於て政府の政策は既に理解されたと云ひ難るまい。地方は政府の圧迫の為め利く事能はざるから或は政府党多数を占むるに至るかもしれないけれども、それは圧迫干渉が民意を左右したる結果であつて、就任当時政府重大多数とまつたく相違するのは、今日も政府が解散を行つて是非一大多数と思ふ。今日も政府は自己の措置を制するのは、時の政府が施す不自己の措置に基くものである。今日のやうな是非権が横張されると言論の是非は別として敗を決するのおいるの。往来も

演説会に出席したる、是は無駄、ひまつぶし、何れも
主人公は有権者に概ね演説をなすかのごとき
つもりなれど。今日は別問題なれ、政策を
言論に表はすべきものなれ、政策を多数を言
論に動かしたるものが多くの投票を得たる実績
は既に二市長選挙に現はれたるなり。人物や
経歴は甚だ漸やく見えたり。中立の
とは曖昧な信念の立つ瀬が無くなりたり、政党
が多き力強いるも皆今日の甚だ立証せり
れたる政府が腐敗をかなんで及動かせるも
及第者を利したることも各党の甚だ立証され
内閣員は既に五の人物多衆の政治心理をを

十二行

解するの能力がなく。一方は善悪を行ひつゝ、徹底主
主義の非理論を唱ふるものは何とする時代錯誤
なり。時代おくれの内閣や武断的主義の田中首相を
は善悪を操縦するの人物ならず。彼等の利
益の黄金と強壁であるかと、等悪を彼
等を囲繞するものであらざるべし、世界の等
進史に例の無いものの干渉をかくて、結果見
れとの教訓なるべし。今日の善悪とーとしたら、こんをよき教訓
である。今日の善悪が教へたことは数多あ
る、その中の真味を七つの内の七点である
二月廿二日朝 [illegible]

（第三種郵便物認可）　昭和三年二月二十一日　（火）

夕刊
東京朝日新聞
二十日
夕刊一部定價金二錢
福岡縣印刷人　繁本尚則
東京市麹町區有楽町三ノ一
東京朝日新聞社

全國一せい投ぜられた新日本首途の一票

すめる朝大地深く根を下せと

清き種子はまかる

國民的要望の的である普選の日は遂に現實のけふとはなつた！金による特權の障壁を打破して始めて全大衆の意思がわが憲政の上に打ち込まれる日だ、この日早春の空は全國的に高々と晴れ渡つて天もまた新日本の首途を十二分に惠むかの如くである、北は寒氣りん烈の北海道の端より南黒潮寄する九州沖繩に至るまで千三百萬民衆の意思は一票にこめられて力强く投票箱めがけて投げ込まれた、既成勢力がいかに古き牙城を死守するか新興勢力がいかに政治の舞台へ躍進するか、國民の裁斷は今投票函の中に祕められてゐる

セーラー万年筆
思ふ存分に書ける
安全インキ止式

主人も運轉手も並んで一票

これが普選の直打

有産無産雜居の第一區

東京第一區の麹町、赤坂、麻布、芝、牛込は有産階級と有識無産階級の雜居してゐる區域だけに、新興階級の色彩はあまり濃厚ではない、赤坂區役所の投票所へ一台の自動車で乘りつけた紳士がある、主人に續いて運轉手がまた一票を投ずべくついてゆく、このあたりが普選の眞の直打ちらしい、十時頃には懇々葉山から上京した高橋是清翁が一票を投じにくる

◇麻布三河台の投票所麻布區役所でも開門と同時に約百名がなだれこんだ十時二十分頃普選の製玉の一人民政黨の安達老が例の渋氣味惡い笑をもらしながら乘りつける、牛込は有權者數が一躍三倍に殖えた區だ、投票所も山吹小學校と愛媛縣學會院長が午前八時頃自動車でやつてくる、十時頃候補者三木武吉君が、昨日までの懇々苦闘の夢が覺め切らぬ顏で投票に來る土色の顏色、しやがれた聲「あゝ疲れた、今度こいふ今度は全く勝手がわからんのでね參つた、疲れた」ここぼす

◇麻布區役所の投票所では午前十時までに一三七〇票の投票があつたこの投票所も十時頃からは殺るやうに早朝から詰めかけた連中は七八人に過ぎない、八時過ぎから聽はひはじめたなごは土地柄だ九時頃氣象台の藤原博士普選日和をうまく當てた滿足の微笑をもらしながらやつてくる、鈴木內相がしぶい横顏に朝日をうけながら、一票いれて去る、十時二十分頃、小川鐵相が泰然として、自動車で乘りつける、九時までに千三百五十票

◇麹町の投票所番町小學校はさすが麹町の投票所番町小學校はさすが

◇東大工町區の細民區を持つ深川第三投票所たる東川小學校には投票定刻前百五十人余りの人達が人口に溢れてイの一番を爭ふ、鐵さびによごれた作業服の男や、泥によごれたつぎはぎの半夫者、有權者を豫想してるたところそれは見事に裏切られた、貴き一票をいれるために、いづれも一張羅を引つぱりだし、つぎはぎの作業服

七ケ所の投票所を通じて見られた中にはふちがこれてふら下つた山高に灰色にあせた紋付の男があるそしてはいてゐる下駄はこま下駄と日和下駄の片々で、警戒中の

列車で横濱へ、上京して外相訪問

【赴任する今日政治問題については語ることを避けたい私は陸軍長官時代貴國の幣原氏珍田伯と殊に親しく會談したことがある今日は一應上京して田中外相を訪問したいと思つて居る】

このみで口をつぐみさん橋には東京のアメリカ大使館バーネット大使が出迎へ一行は午前九時半上京マックベー大使と大使館で會談の上大使同道外務省に田中外相を訪ひ外相官邸にあける歡迎午餐會に臨んだ上午後四時横濱に引揚し同六時半出帆の同船でマニラに向ふことになつた

原宿の火事

全半燒六戸

廿日午前一時卅五分市外千駄ケ谷町原宿一六五會社員松崎熊吉方から發火二階建木造四戸を全燒二戸を半燒して三時十分鎭火した

淺草の火事

二十日午前二時三分淺草區山宿五層物商鈴木進一方より發火同家を全燒半燒二戸をだして四十五分鎭火原因は漏電らしい

區同町富士小學校投票所で場內にいり投票せんとするせつな突然鼻血を起して卒倒した、廣場の象潟警員か手當を加へ忽子の力藏を呼だして引渡した生命には別條ないらしい

湯藥療
曾て大阪毎日新聞廣業面に介された、鼻藥療鼻湯は西巢寺前住職若林振雷法師が鼻病者數萬に藥として、世に公にされましたもので、下記の如き容態即ち鼻が蓄膿し臭鼻汁が出、鼻に蟲が出て鼻水が流れる、鼻がつまり匂ひが分らない、鼻の中に腫物が出來いつも頭が重く物覺わが非常に惡い等の鼻病に用ひて卓効のある藥で御座ます、この祕藥の內容は昔から病の靈藥として知られてゐる朝鮮人參に鼻病の原因を除く高貴藥を細々配しましたもので我々日本の體質には最も適した良藥です不

（第三種郵便物認可）　昭和三年二月二十一日　（火曜）

夕刊

東京朝日新聞

二十日
夕刊一部定價金二錢

編輯兼印刷人　鶴見祐輔
發行人　藤本尚則

東京市麹町區有楽町三ノ一
東京朝日新聞社

全國一せい投ぜられた新日本首途の一票

すめる朝大地深く根を下せと　清き種子はまかる

國民的要望の的である普選の日は遂に現實のけふとはなった！金による特權の障壁を打破して始めて全大衆の意思がわが憲政の上に打ち込まれる日だ、この日早春の空は全國的に高々と晴れ渡つて天もまた新日本の首途を十二分に惠むかの如くである、北は寒氣りん烈の北海道の端より南黑潮寄する九州沖繩に至るまで千三百萬民衆の意思は一票にこめられて力强く投票箱めがけて投げ込まれた、既成勢力がいかに古き牙城を死守するか新興勢力がいかに政治の舞台へ躍進するか、國民の裁斷は今投票函の中に祕められてゐる

主人も運轉手も並んで一票

これが普選の直打

有産無産雜居の第一區

◇東京第一區の麹町、赤坂、麻布、芝、牛込は有産階級と有識無産階級の雜居してゐる區域だけに、新興階級の色彩はあまり濃厚ではない、赤坂區役所の投票所へ一台の自動車で乘りつけた紳士がある、主人に續いて運轉手がまた一票を投ずべくついてゆく、このあたりが普選の眞の直打ちらしい、十時頃には續々葉山から上京した高橋是清翁が一票を投じにくる

◇麻布三河台の投票所麻布區役所でも開門と同時に約百名がなだれこんだ十時二十分頃普選の親玉の一人民政黨の安達老が例の薄氣味惡い笑をもらしながら乘りつける、牛込は有權者數が一躍三倍に殖えた區だ、投票所も山吹小學校と愛日小學校とに分けてゐる

◇麻布區役所の投票所では午前十時までに一三七〇票の投票があつたこの投票所も十時頃からはゐるやひはじめたなこは土地柄だ九時頃氣象台の藤原博士普選日和をうまく當てた滿足の微笑をもらしながらやつてくる、鈴木內相がしぶい微顏に朝日をうけなから、一票入れて去る、十時二十分頃、小川鐵相が泰然として、自動車で乘りつける、九時までに千三百五十票

◇福原學習院長が午前八時頃自動車でやつてくる、十時頃候補者三木武吉君が、昨日までの憂苦闘の夢が覺めぬ顏で投票に來る土色の顏色、しやがれた聲「あゝ疲れた、今度ほいふ今度は全く勝手がわからんのでね參つた、疲れた」ここぼす

◇麹町の投票所番町小學校はさすがに早朝から詰めかけた連中は七八人に過ぎない、八時過ぎから顯は

外相訪問

「赴任する今日政治問題については語ることを避けたい私は陸軍長官時代貴國の酋厚氏珍田伯と深に親しく會談したことがある今日は一應上京して田中外相を訪問したいと思つて居る」

このみで口をつぐみさん橋には東京のアメリカ大使館バーネット大尉が出迎へ一行は午前九時半上京マツクベー大使と大使館で會談の上大使同道外務省に田中外相を訪ひ外相官邸における歡迎午餐會に臨んだ上午後四時横濱に引返し同六時半出帆の同船でマニラに向ふことになつた

原宿の火事

全半燒六戸

廿日午前一時卅五分市外千駄ケ谷町原宿一六五會社員松崎熊吉方から發火二階建木造四戸を全燒二戸を半燒して三時十分鎭火した

淺草の火事

二十日午前二時三分淺草區山宿五覆物商鈴木進一方より發火同家を全燒半燒二戸をだして四十五分鎭火原因は漏電らしい

湯

藥

曾て大阪毎日新聞廣告欄に介された、鼻藥療鼻・鼻湯は西藥寺前住職若林搬雷法師が鼻病者數萬治藥として、世に公にされましたもので、下記の如き效能即ち鼻が蓄膿し臭い鼻汁が出、鼻に蟲が出て鼻水が流れる、鼻がつまり匂ひが分らない、鼻の中に腫物が出來いつも頭が重く物覺わが非常に惡い等の鼻病に用ひて卓効のある藥で御座います、この祕藥の內容は昔から宮病の靈藥として知られてゐる朝鮮人參に鼻病の原因を除く高貴藥を組々配しましたもので我々日本人の體質には最も適した良藥です不

既に

百五十人余りの人達

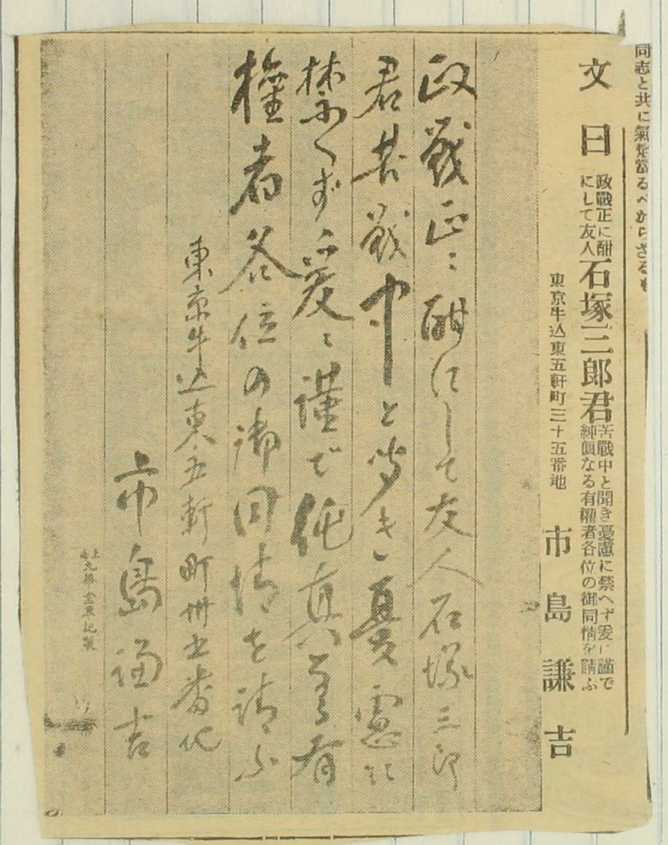
東大工町當の紳民區を持つ深川第七ケ所の投票所を通じて見られたが人口に溢れてイの一番を爭ふ、鐵さびによこれた作業服の男や、泥によこれたつぎはぎの半天着の有權者を豫想してゐたところそれは見事に裏切られた、貴き一票をいれるために、いづれも一張羅を引つぱりだし、つぎはぎの作業服中には、ふちがこれてぶら下つた山高に灰色にあせた紋付の男があるそしてはいてゐる下駄はこま下駄さ日和下駄の片々だ、警戒中の警官は『あれで一番著飾つて來たのです』といつてゐた、投票を終へて强い陽光の當つてゐる出口へ出ると彼等は始めて陽氣に謳り合つてゐる

少し碎拂つた自由勞働者風の男が投票を終へて歸りながら頻りに氣焰をあげてゐる『臺氣なもんでい、今朝は生れて始めて朝酒を召上つて來たんだ、己んここへ行つて見ろ

偉い

人達からこんなに手紙が來てらあ」

藥の不足した顏を赤めながら、



同志と共に氣焔當るべからざる

文日 政戰正に酣にして友人石塚三郎君苦戰中と聞き憂慮に禁へず爰に謹で細個なる有權者各位の御同情を請ふ

東京牛込東五軒町三十五番地 市島謙吉

政戰正に酣にして友人石塚三郎君苦戰中と聞き憂慮に禁へず爰に謹で細個なる有權者各位の御同情を請ふ

東京牛込東五軒町卅五番地 市島謙吉

五

番　名簿對照濟印

東京府東京市牛込區第一投票區 衆議院議員投票所入場券

投票管理者 東京市牛込區主事 岡野民德

第一投票

到着番號 226

選擧人 住居 牛込區 東五軒町 三五 番地

氏名 市島昂

名簿番號

投票日時 昭和三年二月二十日 自午前七時 至午後六時

投票所 牛込區北町二十六番地 東京市愛日尋常小學校

此ノ入場券ハ選擧當日受付ニ差出シ受付番號ノ記入ヲ受ケテ入場シ且名簿ノ對照ヲ經テ投票用紙ト引換フベキモノナルヲ以テ汚損又ハ紛失セザル樣注意セラレタシ

（裏面ヲ熟讀セラレタシ）

注意事項

一、選擧人ハ選擧當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スベシ

一、投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ交付ス但シ衆議院議員選擧法第三十三條ニ依リ不在投票ヲ爲サントスル者ハ同法施行令第二十七條ノ期間内ニ當該投票管理者ニ投票用紙及投票用封筒ノ交付ヲ請求スベシ

一、選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者一人ノ氏名ヲ記載シテ投票管理者ノ席前ニ備ヘアル投票函ニ投入スベシ

（筆、墨等ハ投票所ニ備付アリ）

一、盲人選擧人ニシテ點字投票ヲナサントスル者ハ選擧當日名簿對照所ニ於テ其ノ旨申立ツベシ

一、投票用紙ニハ議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シ又ハ捺印スベカラズ

一、投票用紙ニハ議員候補者ノ氏名ヲ型ニ依リ描出シ又ハ印記スベカラズ

一、投票ハ他人ヲシテ代理セシムルコトヲ得ズ

一、選擧當日マデニ選擧人ノ資格ヲ喪失シタル者ハ入場券ノ交付アリト雖モ投票ヲ爲スコトヲ得ズ

一、選擧人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス行爲アルベカラズ

當日ハ成ル可ク靴又ハ草履ヲ用ヒラレタシ

（罰則）

一、選擧人ニ非ザル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

文日 政國正に劇場石塚三郎君 紋中之劇場 東京牛込東五軒町三十五番地

私が一回の政治を行ふために
是非とも當選さして頂きたい
と思ふ三木武吉君に清き
一票をお願いいたします

渡邊嘉幸

市内中村町三丁目向敬造所

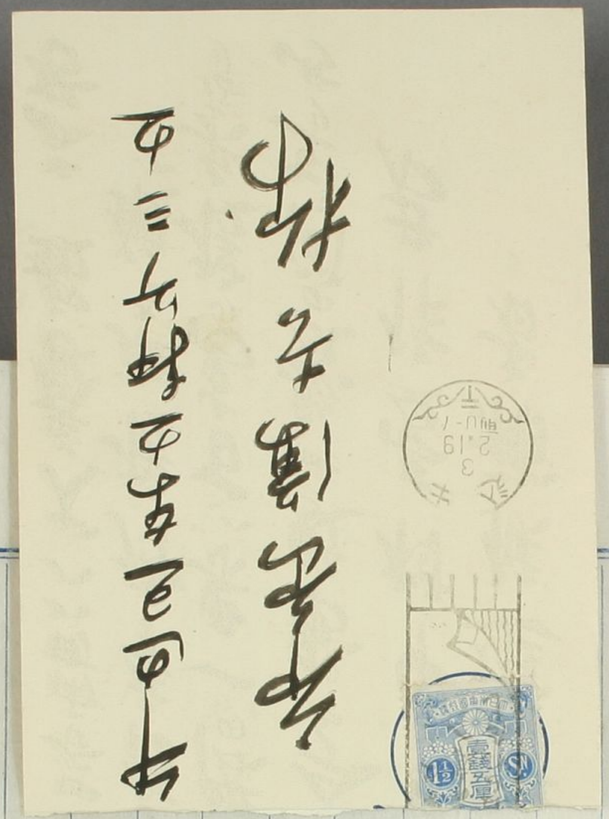
責任者 原玉重（神奈川県久津呂郡戸塚町二四）

新進候補者
中村夏作君
今や勝敗一髮の間に在り此
際の一票八百萬の援兵なり
何卒御援助を願い
四谷南町八八 犬養毅 義啓

私が西一区政治を行ふために
是非とも當選さして頂きたい
と思ふ三木武吉君に清き
一票をお願いいたします

濱口福幸

市内小石川区小日向水道町



今回の衆議院三木
武吉君を推す

十二行

雪ガ二階以上ニ及ぶ

一市街の雪　雪のトンネル

ガンギの足要

横町猫路の雪　高ぶこ形

人ハ電柱の頭部を歩む　雪後草住

電柱の上頭ハ高ハ高松の上ニかゝるを

見る

一雪おろし　雪中の活動と者三種の衣

食の道　第一雪おろしを有

餘き者の雪降れば人夫自家に帰
こ忙しく他人に役さるる能はず一昨
年の北越後の雪巡り市街を高く
雪を以て埋めるに雪おろしの為めに
雪を却ろさんべ家倒る、雪おろし
人足雇ひ導めとし越後の掃雪
多数の人夫を要すること甚しかりき

也

一 大雪の為め二階も道路も平面となる時つ
て迂回の路を経て二階より一直線に捷
路をなるを得 余が高田の旅舎に泊の
夜人雪の駅を分ち上下を上下し

此の夜に徹して利る家土方きが所なる
雪の駅を以て家の内を出入する所なり
ことなり

一 つらゝ を火某大のものと思ふ時は酸化の
人のことろ 北越のつらゝを屋根より
地上に達すること珠らしからず、早く砕
かさんば徒に屋根を損ず、或いつらゝと
つらゝの間より他のつらゝ迄と垂れし終
に面の玻璃窓とすることあり、北越雪
譜に つらゝ 一本を二切三切すれ
共の一切れを橋に置ふの用ある所
あるなり

一 北地の特家庭の構造(ハ)他と異なるハ雪の壓力を防ぐ為也、樺の大黒柱ハ大きなる家まハ概ね有り、概ね柱大くして二間四方ばかりの広隅なるの中央まに柱あり、絶て市街地の人家の前こがンギを設け歩道とするハ雪中こ備ふる為也

一 雪地まる冬的雪かこひを為し家を保護し市庭樹を保養す師ま庭園なること也、市家まる家の構造てハ縁先まに別こ日而戸を仕つて雪中之れを閉つるも雪かこひの一也、今ハ汽車こ乗しまるまる雪かこひあり

十二行

一 雪を掃ふまハ普通ハイスキを用ゆこんを家まるまる、雪かたまり或ハ大塊を断つて掃ふ之とまるまハ鋸を以つて之れを切る往々木挽の大鋸を以てす。尤も・鋸の荒いきこと解雪こ見たり雪を他こ運ぶの時まる、大塊を橇こ運ふを例とす其大概ハ運ふまこ高くまくまハ小こ捨つ、春雪河の如記遊七とまるを得まる也

一 雪中交通こ何ぞ有りや大切なるハ橇まる物貨の運搬こ見家なるまるまる旅客之れこ頼る、前こ掲くまる人後ろを押す人、頃る熟練急坂をまるも危険

又、人力車行れんとする後、雪ありと雖ども
まもなく、人力車の車をおし橇の
上に載せしなるべし、或は霞を生
り或は花輿の如く四周一とするもあり併
別会を不海供のもの也 此時美麗の
戸別訪問の橇の働き 夢の滑稽の
陰なり

一 雪の危険なる傾斜地の雪なれば、地上
の温氣なれば或は雪が後辺に落ちる 行
人の歩行の接きることなれば生ずることがある
先から地まくりのごとく一瀉千里の勢を
以て来る其勢或は樹木を倒し

甚きは一村落の民家を没するに至る
例人もせいぜい前地辺に今は一家全滅
しなるものあり、

一 吹雪は粉雪の濃くなれば降るきう迅速を
并せることを吾海中の霧と一般前近
後退せと不一の誤と陥る 此の時眼鏡
ハメとす危険と身を投ずし雪地に埋め
なるものは、之を俗ふるに カマス と名ふ
蓋義無義に構も入れ(藁袋)を被り長
き竿を持ちて旅立つ数里を行くも
永世也す、吹雪この竿を(長竿)を
あきらめ坐し竿を立て、或は寝る

耕を喫し終て故手の来るを待つ、故手を
竿を目当て釣つて故小也ひ出す也

一　雪深き山河の郷地なれば土を見ること数
月に亘るこの間、土のぬくき懐しきかへ北境
にあるこの心慰むるこの無ハず、北国の人雪
ふき地に別り春の揺るを見て快哉を発
ひ乞ふ誤ハ五月頃に陽光に栽を芋、往
々家族の死亡に遭ふ地に埋まることあ
ればすれば橇に載せ遺骸を載せ谷に投す
ることの多し後の郷地にあくとなり恰
も船中遺骸を海に葬ると同じ
えを橇葬といふ所以なるべし

一　雪国にて長靴を履くこと多し、雪上
を歩むに一往の快あり、二枚の歯を
付ハ不便なり、下駄の下に歯を逆にすることも
ときに所り入れ込みあるものを用ひ、歩くに便す
ることなり、道ふきを行くに草
鞋の下に歯をひら刻きたるものを穿
つ丈の歯の幅七寸乃至一尺、土六枚并
べて編むこの用ひ方ハ多くの所なり
かることなく、軟かき雪を履みしめな
がら行くことを得べし、高頭を纏ふ
藁帽子あり或ハ棕櫚帽子あり、膝を
掩ふの脚絆あり、凍傷を防ぐの魅

の華を以て尚しとする足袋ゲートといふ、
深の靴（蕨を以つて尚しとするもの）は
も大切の長靴なり、草鞋を穿くなる藁
尚のワラ掛を穿つを例とす、暖地の
人まで用ゆる感するものなるべし、
雪中の海嘯い板を、達磨を以つて
り人物を心つるものゝ、どこでも通例
ひあるかゝまくるこゝも見意の興味をそ
つて海嘯ひあるに、今ハスキーの大規模
に行はれるなり、昔しハ美とハ異つて、す
べてまで用を制つて前記の形のごとく
巣結をすゆ比ひ魅ひすゆり或ハ

十二行

ンニヤリ形の歯のないを滑めすとひ魅
を用ひたこと、なるべく早く且つ
練習すると雪中の速力で進
必得べし、凍つた雪ひまけんば、スキーのや
うなものうまいおもしろ、雪投げの勝い
如論行はれるが、雪ひ硬球を以り、美を打
ち合つて優劣を決する海嘯もあつた世の
球を以ちて、豆粒の小さきあらば堅めて進
々雪中の雪を扱つて堅めるのもあ
つて、ト駄の歯てぐるくと壁粧するのひ
あるが、石ころの上を無けんば堅らあ
るものである。

十二行

四十六七年前に行くの天吉や保養所である旅館を
始め三人ばりの機関紙のアんハムは数冊を
作りまして出すのを作り上げることがあ
る。始終味噌家として自動コンナことが大切とされて
まる。断簡零墨参考資料又ちらの論れ
かものの書紀四を出すけんが感覚と思使ひある
のもとなり。又四絵巻と共ともれたるふかられ
る。自分しも新巻はこれ世をよの夜と早大同考録と
納めれかられ、八ら更えを弄び遊ぶといとも思はな
いが北改古行書をつめけて見ると中から三四の
分度の四七流の地図アんハムがあらんれ。ちんを
年号をつる探時代の早大と校ををの入名御

十二行

を始二すあす改定一人沖のカードまて一頁二枚
つ、四を込もやうるれアんハムひ紙と溜り
し拾めて堅実と出来るのは終ひ葉を重ね
る気がさしも先つ一冊を自分の住居と関する
書を作り込む用と作れ、可ちの度さのようあ
るから大概のものを納め得れ。其のアんハムを使
右住居の書とれつけれこと。南の旅行と銀
一比が、同じアんハム三冊を物色しまるへ文
書物のをとるくねめつ見かハ校正あるる使あるんを
家族とりかるる、雑巻を手もり沖縄と始り
つけ見ると、五六十往ると有れ四るる旅の
なるものが沖縄をそ北一冊

が出来て来て二冊と入るようなものを義也中の
又友人達の書画数種の類を送って来て手
書いた筆のつゝ画、これが出て、一枚摺りのあ
りてそれを志紙もつけたれば、まだれもとから志
紙のある一枚摺りの稽古の書画を、宮ちこし
るの数めてくが保存も捨てるも便利と義
のつゝと然り入れて見ると、急ぐ冊ちと二
信夫の原さのアルバムが満ちて、来て冊三冊に数
もくきんちゃくと、初めて表紙のものとコン
ナコトを書き出すといろ〳〵沈ぐ出したい気持ち
しさまくの発表を数のように書写するよう
ある者故の手間、複写の文書、ある紀念の電

十二行

文、的次初年のおくりみちの皮報、共に原稿
ばかりを送ってくれるといろ〳〵出てきるのでこれ
書を姪然りつめるとこゝ二冊三冊が出来た
三巻に数もるものを七八十枚紙に過きないけれども
先ほどの絵紙出来ず
きるだけのものを横序
きるり報知知、清れ、こんなものでか義者のこゝ
ある通般の原文の人手の清ることを考めんなよ
ハンケ書である。三巻各巻ト内容目録を
書しも鶏肋旋義と

二月二日の夜記

昭和三年二月二十四日　市内版　（明治二十五年三月八日第三種郵便物認可）

夕刊
東京日日新聞
東京日日新聞印刷局
大阪毎日新聞印刷局
東京支店
大阪市北區堂島濱通二丁目
東京日日新聞印刷局
株式會社

養鶏の實際
大好評
農業世界
春期増刊
養鶏に関する一切の實際的知識を盡し
價六十錢
國文館

一票の差を以て民政黨第一黨となる

與黨絶對多數の夢終に破らる

國民總意の審判

開票の結果は廿三日午後一時までに殆んど全部判明し得票數の未だ明瞭ならざるものは鹿兒島縣第二區、同第三區、沖縄全縣一區の三區を余すのみであるが右三區も當選者の順位殆んど確定したのでその當選確實者をも加算し全國百廿二選擧區の當選者を通計するときは政友二一七に對し民政二一八となり、最後の一人を以て民政黨が新議會の第一黨を制し政友との一大接戰に勝を占めて凱歌を奏するとが明かとなつた、かくてさきに政友會が豪語したる自ら第一黨を制し更に中立議員の抱込をも加へて絶對多數を占めんとの揚言も今や全く裏切られ、また中立候補者は枕を並べて討死の結果僅かに十五名の當選を見たるに過ぎず、初陣の無産黨は八名の選良を新に議會に送り、民政黨は善戰遂に一大成功を收めて國民總意の審判の下に、第一回の普選は嚴正なる決算を終るととなつた

東權一割九分強

異常なる好成績

當選者

公認非公認

兩派の比較數

實證

普選時代の

實目を見た

老人候補

理由

各派當選者

政友二二七名
民政二二八名
（廿三日午後一時半）

廿一日及び廿二日開票の結果當選者の各派別は左の通りである

民政	二二八	政友	二二七
實同	四四	革新	三
民衆	二	日勞	一
其他	二	中立	五
合計	四六六		一

【二十二日發】（聯合）一一五九五〇

十二行

以上の廿三日夕刊の報道であるが、廿四日朝刊は東京のみを政友一名の差と辛うじて本一堂と報じ、東京朝日は二名の差と報ず、民政党の同数と主張し政友会のみは四名の差あることを報ずるに二名の差が確実らしい。候補者一二名の差で本一堂をうかがうとは云へ、事実は政府大敗也、試みに両党の投票数を検するに民政党の獲る投票数多きことは朝日の報ずるところのごとし

野黨を抜く僅かに二名
政府黨の致命的劣勢
新議會の分野豫測を許さず
息づまる政情の不安

鹿兒島沖縄兩縣を最後として全國の選擧結果は判明したがその當選者數について政民兩派は互に自派に有利に計算し政友會は自黨が二百二十一名で反對黨を二百十三名と數へ又民政黨は政民兩派とも二百十七名といつて居るこれ等はいづれも中立議員の一部をどう扱ふかによつて異るのであるが我社の計算によれば總選擧後の新分野は次の如くなつて居る

政友	二一九	民政	二一七	實同	四	革新	四	民衆	四
勞農	二	日勞	一	地方無産	一	中立	一四	計	四六六

右の如く國民的興味をひいた第一黨の爭奪戰は二名の差をもつて政友會の勝利に歸したが當初の當選豫想を裏切つたことはおほふべからざる事實であるそこで政府は與黨單獨では到底政局を安定することが出來なくなつたので中立議員の抱き込みに夢中になつて居るが議會に不信任案等が提出せられた場合中立議員の多數は政府黨に走ることするもその一部は民政黨と行動を共にするであらう又大臣において實業同志會は政府側と見ることが出來ようがその代り革新黨は尾崎氏を除き他の三名は在野黨に加はり又無産黨は政府强勁派と見るが至當であるから政府も政局安定については今後余程骨が折れること思はれる

全民衆の總意を判定する
各政黨の府縣別總得票
實數が示す野黨の優勝
無産黨四十萬の貴重な得票

第一次普通選擧の總決算は普選大衆一千萬の投じたる結果なるだけに特種の興味をそゝり世間に各種の問題を投げてゐるが政府黨たる政友會と反對黨たる民政黨との當選議員數は不思議にもほとんど相伯仲してゐる これがために國民の總意はいづれの政黨によく反映したかを判定すること困難なる狀態を呈することゝなつたので政局は愈愈異常の動きを見せて來た、しかして今回の選擧の特長として現れたる中立候補排除の傾向である、政府與黨もこの新時代の傾向を看取し得なかつたのが事實上の敗因とせられてゐる程である、次では實業同志會、革新黨等の當選率が豫想以上に思はしからずいづれも中立排除の余波を蒙りたるものと見るべくこれに反して無産各政黨は一般の豫想以上に當選率を見ることとなり一大進出の情況を示してゐる、かく中間派排除の結果は朝野二大政黨の對立を如實に示したるものとして今後政界の注目に價すべきであるしかして政友會は民政黨に比して僅少の差で辛勝はしたものゝ兩黨に投ぜられたる總得票數は

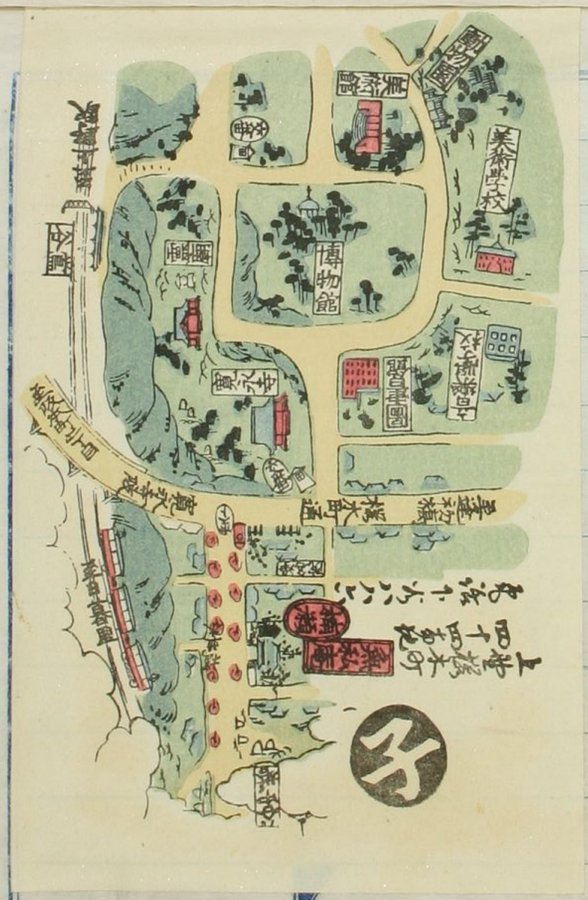
一、民政黨　四、二一八、三九九票
一、政友會　四、一八五、九六三票

となりこの開き實に三二、四三六票は民政黨の勝利を物語るものである 從つてこの數字は事實上多數の國民が民政黨に投じたる證左となる譯であるからこゝに今後比例代表の採用問題等が起つてくるものと思はれる、右兩政黨に對して新興無産各政黨は候補者の亂立を防ぎ得たならば更に多數の當選を見たものゝ如く卽ち

一、無産各黨　四四七、八四六票

となりこの數字を中心として今後動いて行く無産各政黨の前途は多望なることを知らせるものである

本社調査に係る各政黨別(候補者全部の得票數を含む)にて府縣の得票數別を示せば次の通りである



無私庵

世に有用の用あり、無用の用あり、有用の用は其用盡くれば則ち已む。無用の用は其用竭くる莫し。琴棋書畫娯む可し、狂言綺語亦妨げず、要は各々性情の適するに從つて忘吾の契興を舒するに在り。これを此庵の趣旨となす。

犬養木堂

頭山立雲

望月桂崖

賜天覧台覧

田捨女

森繁夫著

西園寺陶庵公　題字
井上通泰博士　題歌
藤井乙男博士　序文
田艇吉氏
田健治郎男　跋文

『雪の朝二の字二の字の下駄のあと』

この名句がその昔、六才の幼女の口吟に成つたといふことは、口碑に、或は文献に據つて既に周知の實である。

此の幼女は、田捨女といひ、夫季成歿後剃髪して名を妙融又貞閑と稱した。丹波柏原の人で、其遠祖坂上田村麿に出づと傳へられ、其の末裔には現に實業界に田艇吉氏、政治界に田健治郎男、田昌氏等がある。

捨女が歌俳に高名であることは、正岡子規が元祿の四俳女として、捨女を蕪子花に、智月を蓮花に、秋色を撫子に、園女を紫陽花に擬したること、年若き頃、既に大家に伍して、撰句に入れることが、正保二年以後の諸書に傳はつてゐるなどに徴して明らかであるが、しかも諸書の取材は何れも同一であつて、歌句の數も極めて稀少なるのみならず其逸話、遺墨なども有り觸れたものゝ外は殆んど世に著はれてゐなかつた。

發行所　大阪市東區淡路町三丁目朝日ビルデイング二〇號　青雲社　振替大阪一三五九三番　電話(本局)二七五〇番

著者小竹園主人森繁夫氏は、短冊蒐集家として、國學者歌人傳記の研究家として夙に知られてゐる。偶ま捨女の傳記調査に際して、田艇吉氏を訪ひ、その襲藏の文書集句の饒多なるに一驚を喫すると共に、これ等諸資料の世に行はれざるを遺憾とし、同家及び關係諸家、捨女の在住せし播州網干の不徹庵等の所藏にかゝる遺文、遺墨を調べて精密に研讃し、之を基礎として、加ふるに自家藏書中より、捨女に關聯ある諸書六十種、其他のもの三十一種を拉し來つて、引用考證餘す所なく、茲に本書の大成を見るに至つたのである。即ち本書は實に田捨女全集ともいふべきであつて、此の高名にして所傳少かりし捨女の生涯、其の師北村季吟、夫季成、兒季鑑に關せる逸聞、二百年來初めて世に知られたる二百四十句の捨女の句集など、實に擧げて此一册子の中に在るのである。

敢て此の一書を大方の讀書子諸君の前に薦む。

菊判二百四十餘頁
遺墨寫眞十數葉挿入
背皮金文字入美本
定價金壹圓九拾錢
郵税一部金拾貳錢

○大阪の森繁夫が私を訪ねてきて、此著田捨女の傳を贈られた。捨女のことは「雪の朝二の字二の字の下駄のあと」の句で知られてゐるけれども、其閲歴は多く知られてゐなかつた。此女の家が田健治郎の家で、捨女は其の八代前の祖母に當り、同家には捨女の詠草其他が沢山存してゐるのを、若し此等の便利を得、之によつて世の中に出さない手蹟と詠草が初めて多く現はれた。捨女は寛永十年に生れ元祿十五年六十五歳で歿してゐる。北村季吟に師事したとある事もあつて、親しい、ものである。

昭和二年より二百九十四年前の人也

二月廿四日記

十二行

○アル公三冊に筆を始り(ママ)文字なること前に記あり、尚同じアル公一冊を取り、こんろう国史の標をも収めんとし、四冊にて数枚を抜出し、今の始り異なる前年標を用ると四五箇所既書の登本を婚ひしことあり、差違を収むべし中に冊録大義紀あり西郷胸中兼用、寛永改元記、立すくも日本人抜文、元禄太平記、右半分の抜地を存す、此と浮世物語もあることを断す

○今使八一ゝ、彩如石硯材を贈り来る、長さ一尺四五寸幅三寸厚さ一寸四講あり おのづから硯形をなす、彩如石ハ古来宣倍

十二行

の、ものなるか初めて也、地脈を支那と引くのなり 支那石に接するを笠子机上拾う北石を重くま 恰南の産あり、勅を新しく他のの加工を 彫すとし

二月廿五日記

○大西印舎三紙兵服者を合作り 三月一日より四日の間印舎四分美の此名を陳列する傍ら前 貴の花を美と出さんと、家義の印の出陳 を与へ即ち三十七點を撰出し、服部新石に 付す、陳曼生徐三庚劉完白吳大徴才の支那 心大雅堂高芙蓉木米道八林右右春為 の刻を如ある名家私印荒平あり

○書法書道の図書を貴刻ちんとの巻あり 柿嶽

日年来り余の盟約をもとも余深しと種々注意
する年あり、余夢うも日本人の活状を蒐集し其数
二百数十種に及ひしことあり、今時数しくなる
其目録高清有すり、日年来の目録を蒐刻と
欲めんと也小刻ち此
○田中伯ふ之者のてんなる維新志士遺墨毎月一
回其月の忌辰に下ることを一章と掲け香華を
献じ、学生ち他をしてこれをしむ、一月二月既に之
ん之果す、伯の厚意を感する者の渡田墨仙
をして伯の肖像一幅を画せしむ、描写たつて迫
る一幅伯と好う、一幅回者の花ちんとす、回
也故の今未比成る、伯の肖像も亦たそうる志士

十二行

の墨跡を宝のせらる、此頃始めて伯に会
ちんとる文書（原書）一通あり、此数のもの其家
に存すべきものなるも、其の到底家と共に保存
やらしとるを逆祝して寄のも者なるか、伯の肖
像に附随せしめ去る云う回者の意に花し
可也
○頃日南條文雄博士の懐旧録を読む、昔頑壮
年時代、傍兵たりしことを叙するを見て一驚を喫
す、実に幕末大狂瀾中小原鐵心者の日に伯
ふるたる僧兵の術を感せしめ、傍を徒会の
ものと見なるが如の事ちう、過厚南條の如き人今
も此経歴ありい聊日か弥とする迄る、マリスミエラー

北の住居を見て気味悪しとし、なるべく南向きの家を選ぶ事他

○普選の法案、拳銃を限定すると果して通ずべきや否やは吟味したる上にて、ポスターを貼りて賛成を求めること共一方、貼り賛成したる人員多くても七月、無くても法の制定あらざる也、○普選の目的なくポスターの多寡が形勢と関係あることなく、多く貼る者を人を雇ふ人、勿論多くその有権者と金を目的とし、食べんを貼らしもるい美一法なるべし

○校友中山田英夫氏、徴兵令を買ふ、尚くの人と下条、人皆悼かる。○余徒々語薬のを折服す、須臾日

十二行

活生命保険の宴席上、余を評して曰く、彼の有名なる前田男爵、あの人は四人みどの人を思いなの中に、かの人、訪問して説を乞ふ、山田は余が近年刊行したる著書を読みて斯く感じたりと見へたり、富豪成功を尊服すること、実に一人とい、実にも豪傑と一笑す

○過ぐる出版を訪する題著下に収めんとて、舞稿を進る、曾つて日本及日本人の巻頭「今の説を書きなることあり、これを百人と百字を分つてあかしめたることあり、百人百字説」とふことなり一也、余輩筆を投ぜ終と得る能わず、同書の信頼し、不敏の筆を捨てて衡せ

得ず。文体を口語体に直し一材料に供せんと擬す

○「雪の思い出」を造業に収めんとして原稿二十枚を作る内次十六七年頃の思い出より、昭和二年の頃の大雪は四十年のしコーヒを破ること、なる。余が思い出を書くに及ぶ雪国の事多く世に知られ、近来スキー行の人雪国の事多く世に知られ、然れども多くの秘話あり、余の執筆はむしろ他郷人の知らざることに係る

○結婚は一の病患なり、婚書と起る面倒と起れば医を呼べて之れを治す、交接の際婦人と起る快感亦

此れを結婚の効、婦人の之れを厭はず醫治を要せざるは、恰も霞女膜を断つる外科の施術を要せざると一般、余が学ぶべき交接方法の一例なり、之れも追加すべしと可也

○善慧は余の所謂る大量投味なり、一千三百万の投票、夫量と云を得べし、北海道棄権一割七八分、諸外国の例に比すれば、類例なきに少数なり、国民が漸やく政治に興味を持つるに一論となるべきか、由来善慧の法は国民に政治教育を為す、結婚の法と為す、言論戦実の国民に政治産なり政治に興味を有せざるなり、国民の地位を高むるものなり

○中立を標榜する議員を曖昧なるものあらざ
れば、政黨政治の要を云ひて立脚するものも
なく、政黨の其實皆婦のごとく操守なるもの
の如き種の欺瞞者流を始め、善惡の流石に此の
曖昧者流をも立つ瀬無らしめたり。思うにきを
當りて無產黨なる、政黨の主義主張を明かにして
立つの時運未だ政黨の幸せざるも、尚ほ中立者
流をも多數を獲し得たり。若し官憲の壓
迫なんの或い倍數を得ること知る可らず、善
惡と見る新風景いと此れなん、政黨の尚ほ禍福
の如きものも前途期る可らざるものあり。
○黨等の無產黨の主義主張と共鳴するものあら

十二行

ず、然れども或る階級の為めに此種の黨流の起るは自然
の勢也、政府既に其の主張を禁ずる能はず、而も
遂に革命黨と主張主義を宣布するに出づ、人心の
理不尽なる壓迫しあらば、言論を自在ならしめざ
るは暴也亦甚し、然れども無產流も往々矯激の
言論を弄するも強ひて政府の壓迫を招き陵する
趣きあるも、其鋒鋒を和らげ自黨の主張
を貫かんとするの法無きにあらず、彼等は自黨を強ひ
ざるべし、政府の言論の壓迫は實に其黨流を助長する
ものあることい、吾政黨史の立証する所である、恰も
吾政界に壓迫が加へられる及ぶの結果は陽を同じ
やうな、畏ふものが黨員の奴動力を投じて其生

育を助けることあるのみ。之れを思へば無産意を発育せしめるまでも亦二歴迫共相ひあるべきあらう。

○小禽飼養の道楽でオーツリーと云ふのである人は鷹司公と云ふ方が成るべく鷹を用ゐる家筋だが小禽の飼味のあるのも潤いんるのもあり、公爵の八禽の祝宴と御実び世間を騒がせる潤る不心力ゝゝゝゝゝゝと云ひんとある、さんへ光こ角山須海所のお禽の十姉妹や胡錦鳥などと云ふんとある、自分ちゃんと面の皆様をゐとゐるのから、此の三馬と記るのは冊子を婚ゐる見た。十姉妹の味はまりとこいずれ

十二行

つと言ひ慣はしんある。身長約三寸五分、羽色白、白地に茶褐色黒色又は柿色の斑を交へ、腹部は概ね白色ひある。原産地は支那ひ、鷹司公の説に隠れは事後須見、輸入さん、四回迄ひは農家が副業として飼養したことがあるが、一般に流行し出したのは五年のことひある、此るは其の名のごとく多く籠中も温順性ひ、狭い所でも繁殖する性質ひ、音調かと手ひ、俗毋ゐるゐ多く卵を産むるに従ゐの点に於て補法ひある。わから白地の無時ゐ流行の傾向が高ゐ

胡錦鳥 金腹科の鳥の内に美麗なる濃
紫の西部及び北部を原産地とし、二十年前迄
は多く流れて来たり、北の鳥は頭部が赤、黒、黄
三色であつて、なかなか美麗なものである。もとは
巣引が出来ぬ様であつたが、八年は十姉妹が仮母
となりて育てたことがあり、原産地
濠州ひの絶種を富り数人を制限してゐる
と云ふが、日本は敢て制限せぬ為め困ることもなく
大流行を極め、俗の言の為めに飼養を
本業とする者が進て殖へて来る傾向とは
へてゐる

二月二十八日記

○郷人医学士桂栄三郎来訪の折意見物

限日の執て云うし、一ふ為を終る。其の内紙
性法の一部を左に掲めておく

唯永い間の経験から哺乳期中姙娠率が少いと得られてゐるに過ぎないのであります　然し全く姙娠しないものとは限りませんのであります　特に故意に哺乳期を延長させると確實でないといふことは明かであります、母子共に不慮の悪影響を與げても　自然其健康をも損ずるに至る場合もあります　此方法は成慎すべきであります、

(二) 特殊の器具を用ゐて機械的に精蟲を隔絶せむる方法

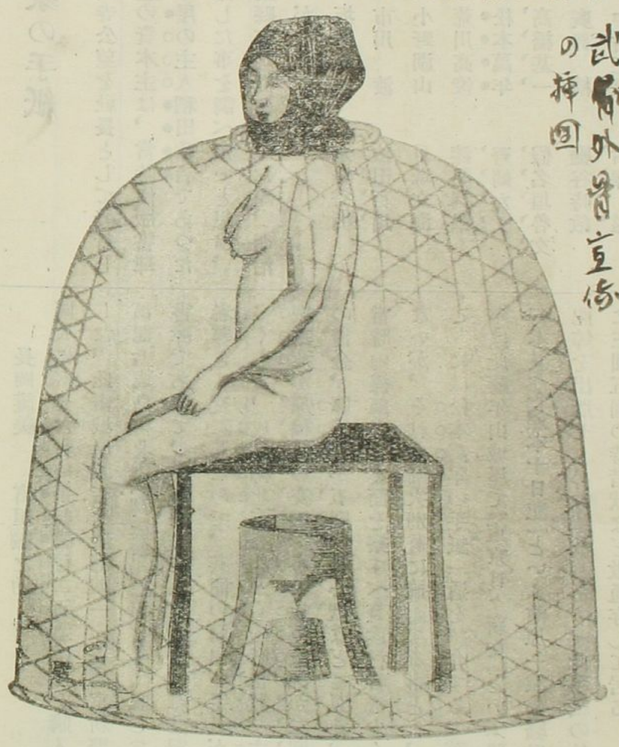
(a) 男子に向つては、

「コンドーム」(Condom)

之は此名の如き醫師が考案した一種の器具で「鞘」とも謂ひて　普通の「ゴム」作られてゐるものと　の膀胱から製せらるゝものと、仔羊の盲腸で作られたものとの二類類があります　この内「ゴム」製品は廉價であるが割合に破損し易く且射精力弱いときは離脱することがありますが、仔羊の盲腸で

黴毒療治の蒸氣浴法

これは近日發行の雜誌『今は昔』に掲載する黴毒檢査の歴史中に挿入すべき繪の一つである明治初期に驅黴院で用ゐた舊療法水銀軟膏を塗つて紙張籠に入れアルコール燈の熱湯で蒸す圖。



武藏外骨宣傳の挿圖

作られたのは最も理想的であります　而して其形も色々ありますから、銘銘吟味した上で使用しませんと妄効に終りことがあります　御注意を願ます

(6)　婦人を向つては佐伯　子宮「サックル」又は子宮帽と謂ひまして、学名「オリクルレープ・ペッサリー」と謂ひ「メンシンガー」氏の考案した

圖の如き一種の半球形ふ椀状の器具であります、之は子宮外口に嵌まるやうに　色々の形が出来てありますが　其材料は大概「ゴム」製で　邊緣は「パテ」又は空氣でふくらして縁りの良いやう　理想的であります、最厚過ぎず、堅たからぬやうにして作られてゐるのが　色々の形や大さの中から自分に最も適當したものを選擇して使用されればよいのであります、即ち餅り大き過ぎる時は膣炎とか膣膣といふ恐ろしい病因ともなることがありますし、又小さ過ぎると　子宮口に甘く嵌まらないとか、又は子宮からの分泌物の溜め　押し流される虞れふどがあります、此子宮「サックル」を取出

すことまつさましては　精蟲は射精後遠くも一昼夜の後まは、自然に死滅するものでありますから若し此時間以内に取出します時には直ちに膣内を洗滌するとか　又は布片ふどで清拭すること　を忘れてはなりません、殘つてゐる精子が「サックル」を取去りましたる後　子宮内に浸入して受胎せしむる虞があるからであります、西洋の婦人は大低　翌々入浴の時に之を取去つて　同時に其「サックル」を良く洗つて　再び使用するやうにしてゐます、此者の保存方法は　陶器製か又は「セルロイド」製の蓋付きの容器が宜しいです　而して尚此中に少許の消毒劑の溶解せられてゐる　水の中に浸して置きますれば幾度も繰返し使用乃至保存するのに利便があります、最も多少其色が脆色しますが　柔軟性を失ひませんから　幾度も使用する方りましても　決して差支へが起りません、

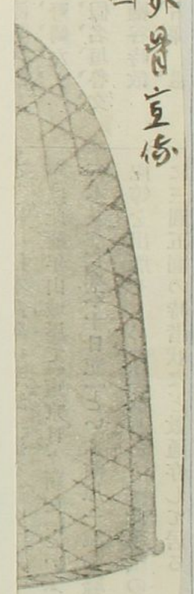
其外普通から普通一般に行はれてゐる方法の一、二　を述べて見ますと次のやうなものがありますが　余り「アテ」にならない方法とは思はれません

(C)　脱脂綿又は海綿を鶏卵大、又は拳大の大さまして「タンポン」として之に取出しは便利ふやうに、六七すの絹糸をつけ之を硼酸水又は食塩水等に浸し

徽

これは近日発行の雑誌『今は昔』に掲載する徽毒検査の図

武蔵野の挿画



外務省宣伝

て軽く之を絞つて　子宮口と膣壁との間に押入し、性交後直ちに之を取出します　而して直ちに膣内を洗滌すれば更ふ安全であります、此法は最も簡単で且便利であるから古来佛國の農民の間に應用せられたのであります　又我國では遊女間は櫻紙の如うな柔かい紙を幾枚も重ねて之を膣内深く詰め込んで置くと精蟲が此紙に吸収されて此動的其目的が達し易いと傳へられてあります、

(三) 特殊の藥劑を使用することに依つて精蟲を死滅せしむる方法

(d) 洗滌法として用ひらるゝものでは　単ふ冷水とか　又は微温湯を用ゐます　或は濃厚食塩水や、昇汞水、又は硼酸水ふども用ひられます、近来殺精劑として「ミクロサイド」といふものを使用します　之は四十倍まして用ひます　次に洗滌器としては特殊の洗滌器が発賣されてゐますが（例へば「コロナし」と云ふ硬ゴム製品の如もの）普通の「イルリガートル」又は流膀器を用ゐても

容易に其目的を叶ひますから普通是で間ふ合せられます、」次に「キニーネ」の種類が　錠劑又は坐藥として應用されて「パランテックス」とか「スペトン」等の名称で市中に販賣されてゐます、又者は明礬を粉末のまゝ殺精劑として用ゐられたことがあります、其外　酢酸、醋酸、又は狗椒酸の水溶液か或は婦人の間に常用されてゐます、其他又硼酸水、クレゾール水等も洗滌用として使用されます、　南又噴霧用として　石炭酸水、昇汞水、過マンガン酸加里液、「キノソール水」等が、豫防的を兼ねて避妊の目的ふ使用されてゐますが　是等の藥品は全然危険の虞れが無いとも限りませんから餘程注意して使用しふければなりません」

(e) 膣球（膣坐藥）

之は各國で今日色々と研究されつゝあるので其眞價はつきましては、各一長一短が伴ふてゐますから判然と推奨し得るものを指適することが六ヶ敷ひのであります　實地醫家用として、一、二、の處方例を示して見ますと

(一) サリチール酸　〇・一五　　硼酸　〇・七〇
キニーネ　〇・〇七　　カ・オ脂　三・〇〇

右一個の腟坐藥の分量

(二) 硼砂　五、〇グラム
硫酸キニーネ　一、五〃
以上三十個の分量

(三) ゲラチン　一、分
キニーネ　〇、五
水　二、〇分
グリセリン　五、分
サリチール酸　一、〇グラム
カンフル精　一/四　ミンド

尚彼の米國の「サンガー」夫人の所謂「ビタミンX」とやら謂はれてある一種の藥劑があるそうで之は頗完全な結果を見るとか傳られてあります

(四) 前述の器具と藥劑との合併法

之は前記の器具の内で　海綿又は脱脂綿かを用ゐてある部分に　殺精劑を　撒布　又は吸收せしめて　之を腟内に裝眞するのであります。此方法は比較的其目的を叶ふて　而も簡單でありますから避妊法は　推奨に値する考案であります。

(五) ウォシュボーン氏裝置

之は俗に避妊「ピン」と称せらるる　普通黄金製の一種の「ペッサリー」で其形狀は色々あります　此器具は子宮口から　子宮腟内に押入する巻煙草様の形態をふしてゐるものでありますが　之も今日では色々と變形されて隨分如何はしいものが　澤山に出来て參りました　形は婦人に依つて多少相違しなければなりません　此物の使用法は　子宮鏡と長い「ピンセット」が必要で　最初は醫師の指導を待たふければなりますまい　素人では相當に解剖學上の智識がありませんと使用されにくいと思はれます、此方法の原理は卵巣から排出される卵子の　子宮内膜面に定着するのを阻止せしめ　速かに腟外に排卵せしむる作用をふすのであります、現在流行してゐるのは　大體「ピン」狀のもので　之を一度押入して置くば　一ヶ月も、二ヶ月も　其儘放置して置いても　月經時の際なども非常に　便利とされてゐます。面倒がないのと心理的にも非常に　差障りが少いと謂れてゐますので此者の材料としては　主として金製が多いですが　尚鍍金、銀、又は白金、

ふどでも作られてあります　之は余り一般民衆的まは普及されまくい方法でありますが　其効果擊まつきましてば　或雑誌ま依ると約四割位ま過きふいと報告されてゐます、尚注意すべきことまは　此器具を　永くそのまゝに嵌めて置きますと　子宮内腰の炎症を惹き起したり　又は子宮轉位ふ陷りまして　永久性不姙症の原因とふるといふ不利の点があります、最も日常の醫藥でも絶對ふ完全ふ効果擊のあるのは少いものですから　是等の事から推して考へますと　今日の避姙の方法ま就きましてば其場合まは只締めるより仕方がないと思はれるのであります、但し上述の「コントーム」と「ペッサリー」との双方を使用しますれば完全ふ避姙法とふるべきは想像ま難くはふいと存じます、

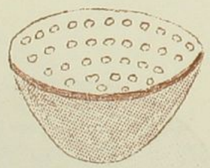
要するに世間一般の婦人が　もう少し「性」ふ對する智識ま目醒めて　同時に器具や藥劑の使用を選擇されゝば　比較的に良好ふ結果を得て　其目的と達し得ることとふるので　只濫りに器具や　理化學的の素品に對して盲信してはふりませんと　豫め警告して置きたいのであります。

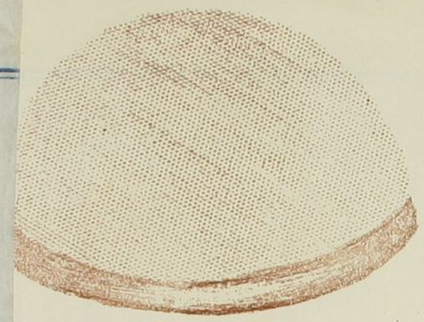
(六)「ポータン」

三も前記の「ピン」と同じやうに　子宮口に嵌める一種の器具で「ウオシユボーン」の裝置ま似たものであります、材料は銀か、又は「アルミニユーム」等で作られ　昔は主に下級社界の間に使用されました、此器具を押入すると先づ子宮頸管を擴張させますから　爲めに子宮筋肉の收縮を促さしめて　排卵せしむるに至るので　丁度人工流産の方法ま似たやうふ原理でありますから推奨することが出来ません、

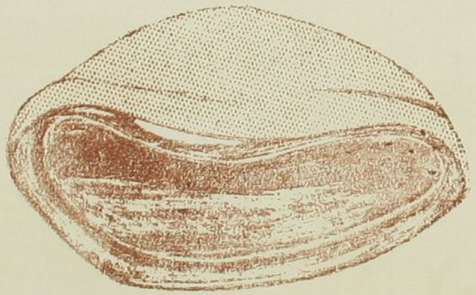
藥劑では直接又は反射的に、子宮筋肉の收縮を惹き起さしめる刺戟劑で例へば色々の峻下劑、蘆薈、又は麥角、エルゴチン、サビナ、ザフラン、等の所謂經經劑、或は子宮の收縮を促さしむる所の藥劑であります、現在世間に流布されてゐます色々の賣藥主主要素とふるべき藥でありますが　如何ふいのが多いので「アテ」ふはふりますまい

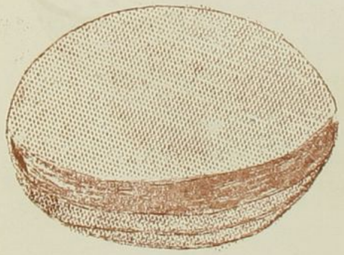
以上で概略の説明を終りましたが　尚詳細は家庭衛生相談所で特に術質問ふ應ずることゝ致しませう。





No 2





總選挙戦況　日本各地の人物評

▲岡山縣第一區中立候補者、鶴見祐輔、壇上大見得を切つて曰く『天野屋義平は男でムる。鶴見祐輔も男でムる』聽衆の一人、言下に半疊を放つて曰く『宅の嬶は女でムる』と。滿場哄笑、流石の雄辯も爲めに笑殺し去らる。

▲東京府第一區政友公認候補者、本田義成、元と無學にして不辯なり。只だ多年市議として養ふところの地盤を擁して立つ。其の壇上に現はるゝや、曰く『諸君よ、英國のムッソリニは……』聽く者、亦た之れを怪しむなし。往年武ト金が、『英國のゼノア』を以つて、雷名を天下に轟ろかせしと、好一對の笑柄なり。

▲山梨縣政友候補者、大崎清作、立候補を宣するの言に曰く『十九歳志を立て、親の金を持て東京に出で、目下成功す』

▲長野縣第三區勞農黨公認候補者、藤森成吉は小説家なり。無產黨の爲に萬丈の氣を吐き、鐵相小が平の牙城を衝く。成吉の父は土地の富豪なり。その子の爲めに、大いに聲援して曰く『十萬二十萬の金なら、何時でも出すから、伜の爲めにウンとやつて呉れ』

▲京都府第一區中立候補、增田伊三郎は大親分なり。東西より雄辯家を聘し、全市に亙りて氣勢を擧げ、言論の旺んなること、十九候補中隨一と稱す。而も伊三郎は終始一語を發せず。只だ姿を壇上に現はし、默禮するのみ。

▲東京府第二區中立候補者、倉持忠助は露店商人なり。添田啞禪坊が推薦狀に『普選うれしや』の俗曲を載す。一節に曰く『長の年月、待ちに待つたる普選の實施。梅も香を吐く俺が春。やう〳〵得られた選擧權、あだに使はぬ樣にしましよ』

▲東京府第五區民政公認候補者、斯波貞吉は文字あるの士なり。而もその宣言は通俗を欲し、一休禪師の狂歌を引きて曰く『傀儡子胸に掛けたる人形箱、佛出さうと鬼を出さうと。昭和三年二月吉日』と。

▲東京府第二區政友會公認候補者、鳩山一郎は、內閣書記官長法學士なり。其の立候補挨拶狀に曰く『議會は解散されました私はまた皆さんの側に歸つて來ました。客間からお茶の間に入つた心持ちです』

▲東京府第一區社會民衆黨公認候補者、菊池寛曰く『私は當選したら、安部サンと同じやうにしてゐます。只一つ私の特權は、議會墮落小説を書くことです』

▼上野の山の花見酒、醉つ拂つてさへ、泣くあり笑ふあり。況んや選擧においてをや。

▼勝つも負くるも、時の運とはいひながら、負けて立つ瀨があるものか。

▼あの人が勝つて、あの人の奥さまの笑ひ顔、見るにつけても此の胸の遣る瀨なさ。

▼妻は腰氣の床に臥し、子はおまんまの足らざるに泣く、人間生れて落選の身となる勿れ。

▼されど候補者九百五十五人の中、當選者四百六十六人、殘り四百八十九人は血の涙。

▼開けて口惜しき玉手箱、里歸りの浦島太郎たらざるもの、殆んど稀れなり。

▼出て見ねばわからぬものはお腹の子、開いて見ねばわからぬものは投票箱。

▼鬼が出るか蛇が出るか、これほど果敢なきものはなけれどこれほど面白いものもなし。

▼落選の涙をしぼりながら、又もや腰を浮かして立つところを見れば、よく〳〵の味なるべし。

▼男の選擧と女のお產、あれほど苦しんでおき乍ら、何時の間にやらポテレンとなる。

▼春日を受けて菰の上、橋のたもとの乞食と代議士とは、三日すれば止められぬと知るべし。

▼『一寸のび二寸のび後家の亂れ髮』とかや。我れから二度の引眉毛、忘れぬ味のあればなり。

▼春風の柳の絲にもつれしか、柳の風に靡びきしか。月が宿るか、水が鏡に映つせしか。

▼嫌ひなれば、色香に迷ふ謂れもなし、好きなればこそ、浮き名をビラに流がしけれ。

▼普選といへば、尤もらしく聞えぬれど、運動のいよ〳〵出でゝいよ〳〵醜なるぞ憂たてき。

▼町に貼りたるポスターを見よ。ビラを見よ。こゝに賣り物あり、買ひなんしといはざるなし。

▼戸別訪問の姿こそ見えざれ、無錢配布の郵便物は『どうぞ私に御同情を』と、悉く低頭平身す。

▼藝者のおひろめか、役者の顏見せか。但しは乞食か物乞ひか。扨ても代議士の淺猿しさよ。

○板木屋二人此年冬造為すべかりしことを一月末
より二月一杯に杉材買地の手入をなし畢る
池の周囲の石垣も修理せしも実は底の
方仕事なれども四方から腐朽し降雨毎
に土池やく流れ入り其修理もなし(至五月)終
に修理と決す、幸ひ近日屋根の柱ナゲシ等
三十数本あり、実は新しきもの多く、底の
一隅を塞きて仕事に用ひるを材料に供す
ることとなり、爰に数のを集めて全く葺替
なり、こゝに要くべき木材三十二本前にある一部の
ごがうに修理に用ひ残りなる約十本兼ねて四十
数ありも堆積の腐材一掃す、北の工事の

十二行

序に池畔のある道に多くの土
を運ぶべしとなり、大震災の際屋根の
仕事に影響し、とゝ畔の地を深く掘りて埋め
る瓦片を思ひあぐるに、土代なる先を充ひこ
れも片付くことを得、高徒前の橋は土橋
なりしを、こゝも丸木の腐材を用ひて成れ
り、無用の用といふべきか、
瓦片のことを言ふなり、
(北窓のことも言ふなり、
諺に不用の用無きと云へる如くなる
此等のなるを示す
三月一日記

思ふ。尾張赤津の穴窯跡に見える、平安以來の瓷器と認められるものなど、正にその一例であらうと思ふ。

實地の調査はしてないけれど、北支那地方にも青磁らしいものが出來た、との說があるとすれば、右樣の次第で一考する値打はあるだらう。して見ると、北支那の青磁らしいものが、軟釉の綠陶ではないかと、假りに考へずとも宜しからうか。是はシャモット氏へ御禮の積りであります。

以上は極めて切り詰めた書き方なので、若し充分を許さるならば、是れ以上に澤山の申し條もあるが、餘りクドクなるのを恐れて、大抵に打切つておくのである。併し達見の士に取つては、單に要點を撮んだ丈でも、もはや滿足されるであらうと思ふ。

△前號中、九頁下段十五行、「地名を」は「地名と」、十頁上段四行「左」は「右」、同下段十七行「造られ」は「送られ」、同末より二行「のである」は重複。

野田休市が浪速の粟東寺を訪ふと、折柄襖が新調されたといふので、寺僧は彼に揮毫を乞ふた。彼は快く承諾し、直に健筆を回して一氣に猛虎の圖を畫き上げた。ところが彼の辭した後、その虎には髭のないことを發見した。スルト數日の後、休市は再度見えた、寺僧は早速彼に髭の畫き足しを求めると、

『さうでござつたか、これはつひ失念した。』

と、彼は直にその傍らへ一挺の大きな毛拔きを畫き足した。此機智には寺僧共手を拍つて感歎したといふことである。

飯塚米雨

私は今、根付を前に置いて眺めてゐる。

根付彫刻と言ふと、昔の工人は根付けぼりと言つて貫ひたいと言ふであらう。嬉しい話だ。言葉が六ヶ敷しくなつて、內容の添はないのが現代の通弊である。繪畫でも然うである。ゑかきといつて賤工に安んじてゐたのは、顏子が一瓢の飲を樂しむ貧生活そのまゝであつて、かういふ境地から名作は生れるものである。現代は六ヶ敷しい言葉と、虛僞な生活との爲めに、兎もすると內容が崩れ勝ちになるのは、お互に省みなければならない。

根付けぼりにも、宇治の茶摘人形のやうな類もあるが、この種のものは農人藝術に屬するものであつて、中には可なり低級味なものも多い。それはそれでまた一種の味であるが、私の玆に言ふ根付けぼりは江戶生ッ粹の藝術であつて、謂はば江戶藝術の一部を構成してゐる特種藝術を言ふのである。

由來、日本人の趣味は、古るく禪から養はれて來た素晴らしい思想に依つて洗練されてゐる。この祖先傳來の日本獨特の趣味は、俄かに失はれるものではない。これが鍛錬を經て來て民族の文化をなしてゐる。大に誇るべき特種のものである。

で、江戶趣味の根付けぼりも、仔細に觀察するとこの禪的

趣味によつて取り扱はれてゐるものが多い。例へば茲にある坊主が衣を冠つてゐる頭の上へ、鼠が匐ひ上つてゐる根付けであるが、これは言ふまでもなく坊主が鼠に驚いた圖であつて、人氣のない暗い寺の光景がよく現はれてゐる。なほ驚くべき技巧は、その根付けを單に机の上に置いたのでは何等驚異すべき點も見出されないが、緒をつけて見ると、その緒によつて坊主が前こごみになる。この刹那に於て鼠の躍動が始まり、坊主の狼狽した態度が表現される。この技巧は餘程藝術の内容に突き進んで考へたものでなければ出來ないことである。

また狸の根付けは、腹鼓を打つてゐる手足の置き場が、よく考へられてゐて、音が響いてくる。それにつれて、尾花と月とが聯想し得られるのは、矢張り内容があるからだ。内容のないものから聯想は生まれない。

唐兒の根付けは、その雀跳りをしてゐるやうな姿も、机に置いただけでは一向に活動を見せないが、腰につけて見ると、その樂しげな心の踊りに現はれて踊りが生きる。かくの如く根付けは小さな技術であるが、吾人日常の生活を樂しませる愛憐な藝術品であつて、古人が如何に生活に藝術の愉快を持ち得たかといふことが、實に羨ましい限りである。

その外、植物では牡丹の花にしても、椿の花にしても、實物を離れて、根付けとしての牡丹なり、椿なりを創作して、それが決して不自然でなく、却つて莊重典雅の氣品があり、繪畫に見られず、他の彫刻物に見られぬ、一種自特の風韻を示してゐる。これは必ず根付け特種の技術があつたことは勿論であるが、工人が根付けの實質に就いて、深い諒解があつた所以であると考へられる。この方面の技術と、その趣味とが今日全く捨てられて仕舞つたのは、日本藝術の爲めに私は甚だしく惜しむものである。

今日の作家が、自己宣傳に沒頭する以外に、靜かに、眞劍に、藝術を樂しむといふ境地を自省して、かういふやうな作品を殘して貰へないであらうか。古の工人のやうな藝術家は今日生れないであらうか。そしてこの捨てられた江戸藝術、根付けぼりのやうな趣味の湧き出る藝術品を、生活の上に樂しむといふ日本人の特性を、是非とも永久に持續して貰ひたいものである。

私は、この小さな江戸時代の藝術品の價値の頗る大きいのを沁み〴〵と考へさせられる。

明治南畫界一方の權威、川村雨谷翁は謹嚴であつたと同時に、またその半面には極めて洒脫なところがあつた。ある年のこと、友人に誘はれて蒲田へ梅見に出かけると、折柄友人の知己だといふ一僧侶に遭遇した。その僧侶、伴れが川村雨谷翁と知るや、翁が兼てより俳句をも能くするのを承知してゐるものから、

『先生！　一句お願ひいたしたいものです。』

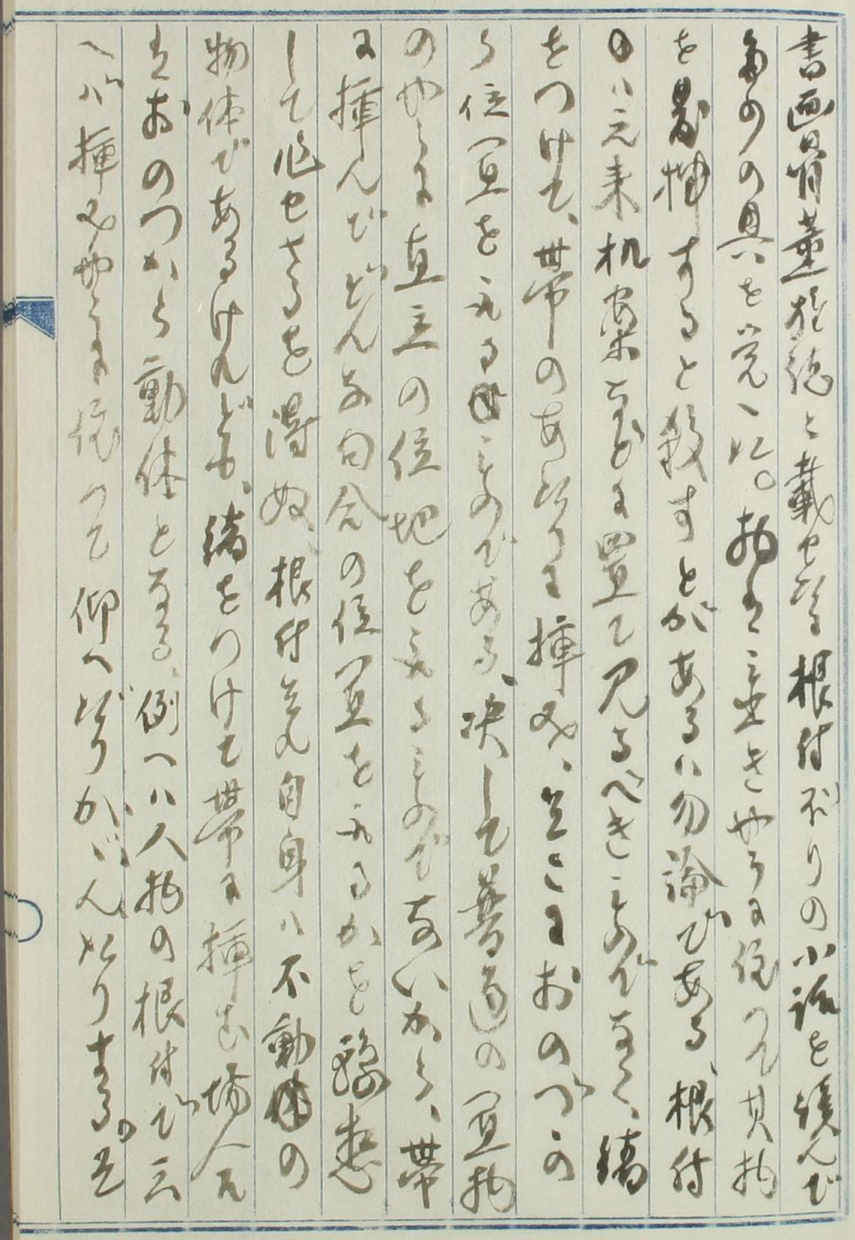
と、斯う言つた。スルト翁は、

『宜しい。』

とばかり、矢立ての筆を取り出すや、直に懷紙へサラサラと認めて差し出した。見ると、

紅梅や肥えたる僧のにくにくし

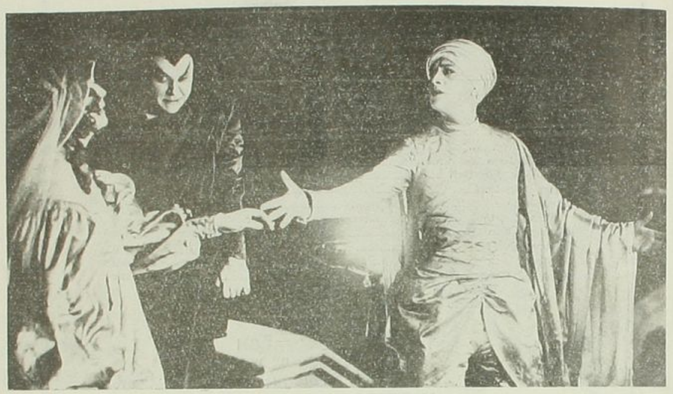
と在る。これにはその僧侶、呆然自失時を久しうしたとか。



の位置で共の相がおもしろく天人等潜在の内奥から表相されなければならぬ。道等の異彩を放るのと云ふ地盤に於ても異なる所があらねばならぬ。根付彫りも地意味に於て特殊の芸術である。根付を印材などに応用して逸興のなかの心の目的が全く異なるからである

○ゲーテーのファウストを故人和田垣博三が面白くて立ち時間と直つてもう語つてくれたのハ今年三十数年の前私が旧人の方を訪ふた時である。話ぶりが上手でもあつたのが大いに興を感じたのが実ハ皆な忘れて仕舞つてもある。地獄武者絵の彼の地の花蕾を映画で見るのが無上の楽しみ

十二行



ファウスト

全十卷

エフ・ヴエー・ムルナウ氏監督
ハンス・キーザー氏脚色

ファウスト……ゲスタ・エックマン氏
メフイスト……エミール・ヤニングス氏
マルゲリート……カミラ・ホルン嬢
ベルマ公爵夫人……ハナ・ラルフ嬢
天使……ウエルナー・フユッテラー氏
マルタ……イヴエット・ギルベール夫人

（略筋）老學者ファウストは彼の住んで居る町を襲つて來た恐ろしい疫病を潰滅す可く必死となつて働いた。彼は自分の仕事に悪を垂れ給はんことを神に懇願したゝけれど彼の凡ての努力は無駄に終つた。絶望のあまり神を呪ひ天を呪ひ、そして魔の力に心をひかれ其出現を願つた。この時地獄の公子メフイストが現れ自身の血を以て契約に署名することを勧めた。その契約とは彼の不滅の靈魂に對し地上の凡ての力を與へると云ふ取引なのである。亦メフイストは彼に青春時代の幻な夢見させて誘惑した。遂に悪魔の誘惑に打負かれたファウストは時も年代も超越した惑亂の渦の中に運び去られたのである。古代の名高い美女の腕に抱かれたファウストは凡てを忘れて陶醉した。そして青春を取戻した彼は歓楽から歓楽へと蝶の様に移つて行つた。けれど如何なる快楽も燥宴も彼の心の奥底に潜む「善」を殺して仕舞ふことが出來なかつた。彼は懐郷病になつた。メフイストにせがみ無理に故郷に連れ歸らして貰つた。其處でファウストは美はしい處女マルゲリートに會ひ一目見て彼女を愛した。こゝであの血みどろな悲劇がメフイストの手に依つて始められたのである。美しい處女の上に……

説明　石野馬城　徳川夢聲　伴奏曲目撰定　長谷川秋雨

の位置で其の趣がおもしろく見へ又潜在の内容
が暴露されねばならぬ。通常の異形を作るの
とは此點に於て異なる所があらねばならぬ。根
付けるも此意味に於て特殊の藝術である。

VOL. 8 MUSASHINO WEEKLY No. 10

(A Week From March 1st, 1928.)

A Fox Picture

TITANIC In 10 reels

John Breen	George O'brien
Becka	Virginia Valli
Pug Malone	J. Farrell Macdonald
Channon Lipvitch	Dore Davidson
Mrs. Lipvitch	Sonia Nodalsky
Josephine	June Collyer
Gerrit Rantoul	John Miltern
Gilbert Van Horn	Holmes Herbert
Judge Kelly	Frank Dodge
Grogan	Dan Wolheim
One of Grogan Gang	John Dooley

From the novel by Felix Reisenberg,
Scenario and Direction by Allan Dwan.

Interval Music

TANNHAUSER MARCH

R. Wagner

"FAUST" Prologue.
Mefistofele.

A. Boito.

An Ufa Picture

FAUST In 10 reels

Faust	Goesta Ekmann
Mephisto	Emil Jannings
Marguerite	Camilla Horn
Her Mother	Frieda Richard
Valentine her brother	Wilchelm Dieterle
Martha, her aunt	Yvette Gilbert
The Duke	Eric Barclay
The Duchess	Kanna Ralph
The Cherub	Warner Fuetterer

Manuscript by Hans Kyser.
Directed by F. W. Marnau.
Photography by Carl Hoffmaun

上映順序（三月一日ヨリ）

一 タイタニック
説明 丸山一聲 山野一郎
作曲目選定 眞岡喜代治
映寫擔當 石川作之助

二 音樂『タンホイザ行進曲』
ミハエル・グリゴリエフ指揮
武藏野管絃樂團演奏

三 ファウスト
説明 石野馬城 徳川夢聲
作曲目選定 長谷川秋山
映寫擔當 田中末松

武藏野館
電話四谷一四二二番

之れが無論原形其のまゝを演じたものでなくては
今の時代で此映畫を見ると太古の骨董を見る
やうな心地もせらるゝが、去かし濃厚なる宗教
味があつて、副他の氣が漲つてゐる所とクラシ
ツクの優が高級され

解説

映畫『ファウスト』は、昔つて天才ゲーテの靈筆によつて二部作の悲劇に作り上げられた、中世獨逸の傳説『ファウスト博士』の物語を映畫化したもので、その際、多くの異本を渉獵し勿論ゲーテの作品をも參考として、作られたものである。

脚色者ハンス・キーザー氏は西プロイセン出身の文學者で、幾多の小説戯曲の他に、『賢者ナータン』『阿修羅王國』等の映畫を脚色したことがある。

監督者エフ・ヴェー・ムルナウ氏は、ハイデルベルヒ及びベルリーンの大學に美術史を修め、後にコンラット・ファイト、エルンスト・ルビッチュ等と共にマックス・ラインハルトの劇團に俳優として出演した。彼の今迄に作つた映畫は『燃ゆる大地』『ノスフェラトゥー』『ファントム』『大公爵の財政』『最後の人』『タルチュフ』等である。

エミール・ヤニングス氏については今更呶々を要しない。主役ファウストはゲスタ・エクマンといふ瑞典の青年によつて演じられてゐる。彼はストックホルム、コペンハーゲン、オスロ等の劇場で、舞臺に立つてゐた、有名な美男である。

『若く、スラリとして、纖細で魔法の様な甘美さを持つた』といふグレーチヘンに對する監督ムルナウ氏の理想にピッタリ合つて、エクストラから一躍スターになつたカミラ・ホルンは、この映畫で初めて見出されるや否や、全世界に認められて今ではアメリカへ移つて、ジョン・バリモアの相手役を演じてゐます。

メフイストの助力でファウストは無邪氣な乙女を易々と手に入れることが出來た。二人の出現はひどく彼女の母親と兄を驚かした年老いた母親は心痛の餘りに死に、妹の不名譽を防がふとして劒を拔いた兄ヴァレンティンはメフイストに刺された。

の姿を見て、自分の若さを呪ひメフィストを呪つた。そして野猪的の勇猛さで最後の望を成就さすことを急いだのである。若やいだファウストは一瞬の中に白髪の老人に變つた。この時グレチヘンは焚殺の刑場へと彼の前を引かれて行つた。ファウストは彼女の前に跪まづいた。そしてゆるしてくれと懇願した。けれどもグレーチヘンはこの老人が誰だか解らなかつた。彼女は刑吏に小突か

VOL. 8 MUSASHINO WEE

(A Week From March 1st, 19

A Fox Picture
TITANIC In 10

John Breen .... J.
Becka ....
Pug Malone ....
Channon Lipvitch ....
Mrs. Lipvitch ....
Josephine ....
Gerrit Rantoul ....
Gilbert Van Horn ....
Judge Kelly ....
Grogan ....
One of Grogan Gang ....
From the novel by Felix Reisenberg
Scenario and Direction by Allan Dwa

Interval Music
TANNHAUSER MARCH
R. Wag

"FAUST" Prologue.
Mefistofele.
A. Bolt

An Ufa Picture
FAUST In 10

Faust ....
Mephisto ....
Marguerite ....
Her Mother ....
Valentine her brother ....
Martha, her aunt ....
The Duke ....
The Duchess ....
The Cherub ....
Manuscript by Hans Kyser.
Directed by F. W. Murnau
Photography by Carl Hoffmann

解説

映畫『ファウスト』は、曾つて天才ゲーテの靈筆によつて二部作の悲劇に作り上げられた、中世獨逸の傳説『ファウスト博士』の物語を映畫化したもので、その際、多くの異本を渉獵し勿論ゲーテの作品をも參考として、作られたものである。

脚色者ハンス・キーザー氏は西プロイセン出身の文學者で、幾多の小説戯曲の他に、『賢者ナータン』『阿修羅王國』等の映畫を脚色したことがある。

監督者エフ・ヴェー・ムルナウ氏は、ハイデルベルヒ及びベルリーンの大學に美術史を修め、後にコンラット・ファイト、エルンスト・ルビッチュ等と共にマックス・ラインハルトの劇團に俳優として出演した。彼の今迄に作つた映畫は『燃ゆる大地』『ノスフェラトゥー』『ファントム』『大公爵の財政』『最後の人』『タルテュフ』等である。

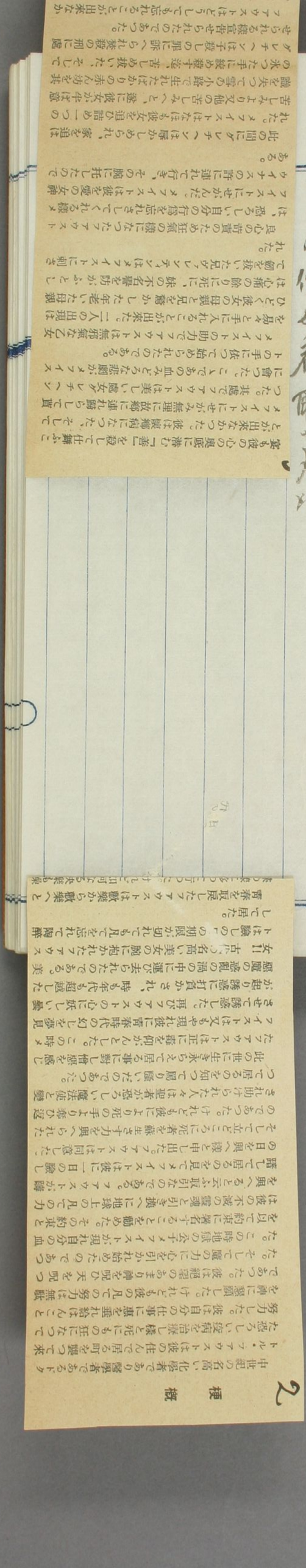
エミール・ヤニングス氏については今更呶々を要しない。主役ファウストはゲスタ・エクマンといふ瑞典の青年によつて演じられてゐる。彼はストックホルム、コペンハーゲン、オスロ等の劇場で、舞臺に立つてゐた、有名な美男である。『若く、スラリとして、纎細で魔法の樣な甘美さを持つた』といふグレーチヘンに對する監督ムルナウ氏の理想にピッタリ合つて、エクストラから一躍スターになつたカミラ・ホルンは、この映畫で初めて見出されるや否や、全世界に認められて今ではアメリカへ移つて、ジョン・バリモアの相手役を演じてゐます。

メフイストの助力でファウストは無邪氣な乙女を易々と手に入れることが出來た。二人の出現はひどく彼女の母親と兄を驚かした年老いた母親は心痛の餘りに死に、妹の不名譽を防がふとして劍を拔いた兄ヴァレンティンはメフイストに刺された。

良心の苛責のため狂氣の樣になつたファウストは、恐ろしい自分の行爲を忘れさしてくれる樣メフイストにせがんだ。メフイストは彼を愛の女神ウイナスの許に連れて行き、その腕に托したのである。

此の間にグレチヘンは辱かしめられ、家を追はれた。メフイストはなほも彼女を追ひ詰め一つの苦しみより又他の苦しみへと、遂に彼女が半ば意識を失つて雪の小路で生れたばかりの赤ん坊を其の氷つた手に絞め殺す迄、苦しめ拔いた。そしてグレチヘンは子殺しの罪に訴へられ焚殺の刑に處せられる樣宣告せられたのであつた。

ファウストはどうしても忘れることが出來なかつた。彼は又もやメフィストにせがんでグレチヘンの牢獄へ運んで貰つた。二人はやつと時間に間に合つた。グレチヘンは丁度刑に引き出されるところであつた。ファウストはグレチヘンの受難



VOL. 8 MUSASHINO WEE

(A Week From March 1st, 1928

A Fox Picture
TITANIC In 10

John Breen
Becka
Pug Malone
Channon Lipvitch
Mrs. Lipvitch
Josephine
Gerrit Rantoul
Gilbert Van Horn
Judge Kelly
Grogan
One of Grogan Gang

From the novel by Felix Reisenberg,
Scenario and Direction by Allan Dwan

Interval Music
TANNHAUSER MARCH
R. Wagne

"FAUST" Prologue.
Mefistofele.
A. Bolto.

An Ufa Picture
FAUST In 10

Faust
Mephisto
Marguerlet
Her Mother
Valentine her brother
Martha, her annt
The Duke
The Duchess
The Cherub

Manuscript by Hans Kyser.
Directed by F. W. Marnau.
Photography by Carl Huffmann

二 音樂 『タンホイザ行進曲』 ミハエル・グリゴリエフ指揮 武蔵野管弦楽団演奏

三 ファウスト 説明 石野馬場 作曲目説明 佐藤 武蔵野館

梗概

中世紀の古い伝説化粧こなり舞踊家こなりドイツ・ファウストは彼の住んで居る町を離こて来た。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつた。彼は自分の仕事に満足せず絶えず苦悩し様こ死にもの狂ひになつて来た。彼は神に願ひ悪魔を呼び天を呪つ努力は無駄こなつ

獨逸ウーファ社大作品

ファウスト

全十卷

文豪ゲーテの名作に主題を借りて——

脚色……ハンス・キーザー氏
監督……エフ・ヴェー・ムルナウ氏
撮影……カール・ホフマン氏
装置
衣裳……ロバート・ハール氏
……ワルター・レーリヒ氏

俳優

ファウスト……ゲスタ・エクマン氏
メフィスト……エミール・ヤニングス氏
グレーチヒェン……カミラ・ホルン嬢
母親……フリーダ・リヒャルト夫人
ヴァレンティン……ウィルヘルム・ディーテ氏
マルテ……イヴェット・ギルベール夫人
パルマ公爵夫人……ハナ・ラルフ嬢
天使……ウェルナー・フュッテラー

○正親町公和といふ人が楠瀬日年と共に訪ひ来り渡辺崋山の画稿と写日手扣六冊を示された。田原に於ける崋山親族珍蔵のものでこれまで世に出さなかつたのである。今度穫[?]覧して石版を以て印行しようといふのだ。自分は相談された。崋山の絵入の日記の類は今多く世に伝つているが、六冊まであるものの類は珍とすべきものである。此手扣と称するものの前半は絵を写したものであるけれど自然の山をスケッチしたものが多く交つてゐるのもて茶の木などいふものなども縦横自在の妙がある。ナントモ云へぬ。此人は大なる天才である。花卉翁[?]

人物を描くは其得意とする所であつて山水も写生する所[?]得意と謂ふが妥当であらう。人は多く関東では崋山、関西では竹田といふけれど竹田は技術に於いて崋山の枕流[?]の風韻はあるけれども芸術は神に入つてゐると云はれぬ。之に比すれば崋山は豪放[?]で殺[?]してゐる。竹田も山陽の書のことく評判が高いのである。崋山は寧ろ明治の初年頃までは人と評判され印[?]を蒙[?]つといふことは人が其の伍を賞歎することを極つとめた。其れは切腹したといふ経歴をも鹿[?]れたからでもあるが、芸術の上では争ひ難いものである。漸やく其の価が認められて来た。人物を論

下七兄弟から考へて頗る有の意味がある自分は僅かに存する数年や歳墨が田禄の災に羅ふ為め復数年を経るの幸を可とせざるを得ぬ

三月四日記

○大量仮味噌とふを過年来載せんとして稿を記しさて我国に於て概略歌せざるを得ないのは国産のみならず大量にあることに紡績を始めいくらの大量国産をもめすもハめすもうもの多数のものである千二千義をも生ずる筈がきいはるく農場の資産の生じ元うを不得以ては地産者と数の乱しもある、零細の北海が亡びたのを称する高世事の行衰をもて

十二行

一二物を以て集めんとしたが其も生産をうけとといふが四の習慣である所から八万以つて国産が破り切れずに量日生産と由義をうくさせるのを国ちの綜合すれば資産の生る事

○ビジネス、バローメトル！ 事業の指針とするべきことの経済統計があらはれて統計学の術が修められてから久しいことであるが多くのバローメトルとして西洋の統計を事業のガイドとすることは早く開けてある日本にも全部をもて其くまで業のガイドとなるべき統計が出来てある

其志が一段進歩したことを表はして
各事業の指針となる表を発行する所も
出来たることあり、西洋ひも比較的進歩
やうと共に、大陸まであるが来
国する様に進んでゐる。我邦ひとりダイヤモンド
社が近年始めて高島と東洋海産株式会社
七社の共保し合ひの中に毎週一回表を発行して業績
ダイヤモンド社七八年を経過する
あから年八十四を徴するといふことに
なり、大役の時村
社のやうなものといふが、其中今年を経過
したと云へば、多分日本家宝傳の其二つのうちの
であらう。之を正確にやれば世界のガイドする
事

十二行

る以外に余が大切なることもあるが、之を初めるまで二
年位材料蒐集統計方法の準備
を要する。之が済んだとしても、正確の資料を
各人等社から得ることの困難の面倒がある。相当な
資金をもつけんばならぬ、一般から信用を得ること
また相当の年月を経ねばならぬ。ダイヤモンド社
の今日が一千八百位の統計に基づいてゐる社員が三十人
位もあるやうな世人へ対して
やつて見たいと思ひつゝ
又始終軽率と笑ひ合ひしても
(三月四日記)

○京都の谷村一太郎来訪、頼山陽の書幅を譲らし

まず余に題画を請ふ、展べて見れば楽翁が杜鵑の画を賛する杜鵑りてるの即ち
画を京にても使しなる田内月堂に書して與へたる
ものも、北帳もと白川の田舎なる人の作なり、谷村を人
の手に渡り、谷村を人しも余に題画を頼まれ
りとなる也　こんこ就て思ひ起すのは前年京都に
滞在中柄谷堂に北の大横
軸一幅を見ることあり、今北帳を見るにこれも
條幅なれども去引二行に渡つて、多分前年
見しは副本なるべく、條幅の原に掲くるる仮
なるべき花かず見まがふべきものあるも正
なる義歟に頼襄の弁解とあるも体を潜ず

一枚分美に掲ず且き泡茅山陽亜既の茅
挿入ることを期すといふ　三月十日記
○図書道示を廣しん寂寥を慰する折柄、田人荒
木十畝を中心とする一画会を組織し余も参
加を勧む、余今人の画をあまさるも強て拒み難
き所なれば遂に応ず。○十畝は愛畝の子息なる先
次友人の家に初めて見る、未だ五十にも及ばざる人な
れども人格すきものと見受けられる。数日前初めて市
一会を栗地の錦水にひらく、十畝二枚の画を
携へ来る、抽斎の未亡人余当斎、抽斎に嫁して
能しかる一画を獲たり。斎は弱き身なれども
[illegible]　七月寄也

所に来るものか、宮内の威名き能はざる也。十畝ち完
畝の四隅の流を汲み別に一機軸を出さんとする
こと也。余の獲ち畫ち[illegible]を元の
居る所に撤去[illegible]。黄色の黄色を用
ゐ、頗る力心のあり、酒次畫論を開いて十畝
曰く、流派を樹つるは拙也。自由の心境を
拓き、前人車の長所を[illegible]事こと
とするが自分のやり口なり。流派を拘泥せざること
尤も妙意を得たり。吾輩画人今日画を
なを欲す事、唯此法敵を得るを快とす。元[illegible]
義術の人なり。議論なるものなり。十畝ち法
敵とするを以て、但此画量ちきを慨とするのみ

十二行

十二行

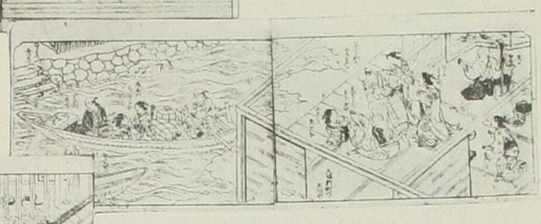
大阪杉本梁江書屋の一部

通俗諸分床軍談

【稀本欄一頁參照】

契情雙盃

【稀本欄三頁參照】



女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

十二

丹鶴圖譜　調度部大形本　紋部箱入三册　參百圓

紀州新宮の城主水野忠央公の輯むるものにて、國寶になれる調度器物紋樣に精密なる彩色をなして模寫をなせる稀本なり。

眺望集　大形　箱入　二帖　八拾圓

本書は浪花平瀨家の有になれる國寶に値せる短册帖を昔浦井有國氏が所持せらる、當時模刻せるものにて續篇は稀觀本なり。

古鄕歸の江戸咄　極上本　帙入　大本八册　五百五拾圓

貞享四年の刊行になる古版地誌にして、菱川師宣の繪を挿入せり、平出氏舊藏本にて元表紙元題簽の美本なり。

伏見鑑　横本　帙入　美本二册　六拾五圓

安永九年の刊行にて、山城伏見の地名由來、古蹟、陵墓、社寺、山川町奉行、諸大名用達、船宿、商工諸職名鑑を記せる地誌なり。

日本繁昌寶永千歲記　田村榮秀著　元表紙元題簽　帙入大本七册　四百五拾圓

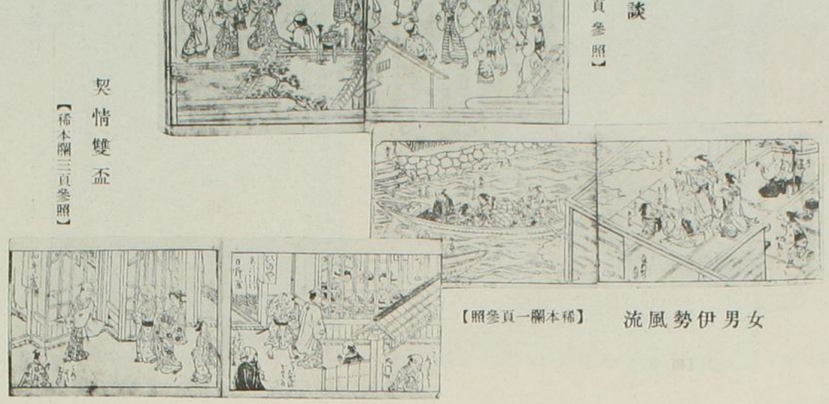
寶永二年の刊行にして、御世泰平を祝して諸國の神社を題材として、西鶴流の文章に古雅なる繪畫を挿入せし風俗史なり、勝海舟伯の舊藏本なり。

女男伊勢風流　八文字自笑作　横本三册　參百五拾圓

正德四年の刊行にして、業平を題材とせる色修行の小說本にして、西川祐信の挿畫を加へたる稀本なり。

通俗諸分床軍談　江島其頓作　元表紙元題簽　大本五册帙入　參百五拾圓

正德三四年頃の刊行にして、京嶋原、難波の廓遊びを題材とせる浮世草紙にて川鳥信清の挿畫あり。（二枚補寫あり）



女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

契情雙盃　【稀本欄三頁參照】

談　【稀本欄一頁參照】

丹鶴圖譜　調度部大形本紋部箱入三冊　參百圓

紀州新宮の城主水野忠央公の輯むるものにて、國寶になれる調度器物紋樣に精密なる彩色をなして模寫をなせる稀本なり。

眺望集　大形二帖箱入　八拾圓

本書は浪花平瀨家の有になれる國寶に値せる短册帖を昔浦井有國氏が所持ぜらる、當時模刻せるものにて續篇は稀觀本なり。

古鄕歸の江戸咄　極上本帙入大本八册　五百五拾圓

貞享四年の刊行になる古版地誌にして、菱川師宣の繪を挿入せり、平出氏舊藏本にて元表紙元題簽の美本なり。

伏見鑑　横本帙入美本二册　六拾五圓

安永九年の刊行にて、山城伏見の地名由來、古蹟、陵墓、社寺、山川町奉行、諸大名用達、船宿、商工諸職名鑑を記せる地誌なり。

日本繁昌寶永千歲記　田村蘭秀著元表紙元題簽帙入大本七册　四百五拾圓

寶永二年の刊行にして、御世泰平を祝して諸國の神社を題材として、西鶴流の文章に古雅なる繪畫を挿入せし風俗史なり、勝海舟伯の舊藏本なり。

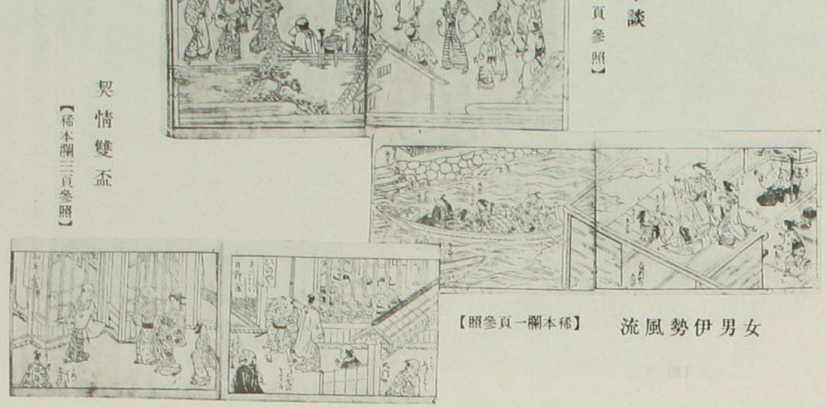
女男伊勢風流　八文字自笑作横本三册　參百五拾圓

正德四年の刊行にして、業平を題材とせる色修行の小說本にして、西川祐信の挿畫を加へたる稀本なり。

通俗諸分床軍談　江島其碩作元表紙元題簽大本五册帙入　參百五拾圓

正德三四年頃の刊行にして、京鳴原、雛波の廓遊びを題材とせる浮世草紙にて川鳥信清の挿畫あり。（二枚補寫あり）

○稀本



談
【頁參照】

契情雙盃
【稀本欄三頁參照】

女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

版彩本梁江書目の一部

戀の道心　瀧口横笛　元表紙元題簽上本半紙一冊　參百八拾圓
延寶四年の刊行にて、山本角太夫正本の繪入淨るり六段本にして、その正本世に傳ふるもの稀なり。

當流小栗判官　極上本半紙一冊　參百五拾圓
繪入淨瑠璃六段本にて、大阪平野町正本や五兵衛板行の稀觀本なり、貞享頃の刊行ならん。笠亭仙果舊藏本。

日本記素盞嗚尊　古雅繪入半紙一冊　貳百八拾圓
本書は狂言本屋九左衛門板行にして、片岡仁左衛門座大あたりの狂言番附繪本なり。

道行盡抄入　加賀掾嘉太夫正本半紙一冊帙入元表紙元題簽　參百八拾圓
元祿頃の出版にして、和氣清麿、つれ〳〵草等十種の道行に節付をなし古雅なる繪を挿入せる稀觀本なり。

御座敷あやつり　元表紙元題簽半紙帙入一冊　貳百圓
元祿以前の出版になる半太夫節正本にして、おせんの道行外八種よりなる珍本なり。

京都江戸大阪　雨夜三盃機嫌　半紙二冊帙入　四百五拾圓
元祿六年の刊行にして、古雅なる役者の風姿畫に狂詩を以て評判せる稀觀本なり。

役者花双六　八文字自笑横本三冊合本帙入一冊　百貳拾圓
寛延二年刊行にて、京大阪江戸の三芝居の俳優評判記にして古雅なる狂言の畫を挿入せる美本。

役者夏の富士　市場通笑作勝川春章畫半紙一冊　貳百參拾圓
安永九年の刊行にして、勝川春章が尤も圓熟せる筆になる、俳優似顔繪にして、初刷上版、待賈堂舊藏本なり。

契情雙盃　尾城下、世喜著板木屋甚七梓行横本帙入一冊　百圓
寶永四五年頃の刊行にして、名古屋の東西兩廓の評判記に八文字舍流の小說体に記し、古雅なる挿畫ある珍本なり。

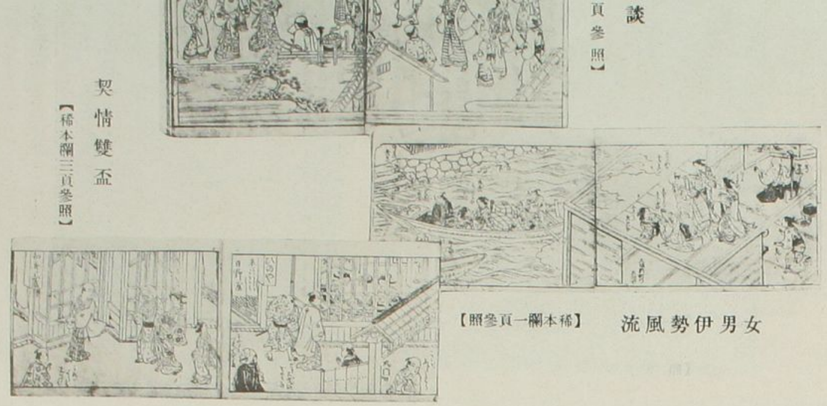
儀太夫評判記　稀本横本帙入　參拾八圓
寶暦十四年の刊行にして、三都の義太夫、三味線、を位附に評判せしものにて、撰者は涙花東都軒なり。

三都役者娘淨瑠璃評判記　元表紙元題簽美本横本三冊帙入　百拾圓
七文舍愚笑の撰にして、役者と涙淨瑠璃とを取合せ評判せしものにて紋所を挿入せし珍本なり、天保八年の刊行なり。

武家職原鈔　奥村政信畫中本二冊　五拾圓
正德六年の刊行にして、武家の役者を解說せるものにて奥村政信の畫を添へたる稀本なり。

四季豐年藏　元表紙元題簽美本帙入中本四冊　八拾圓
安永年間の出版にして、農家の年中行事を西村重長の麗筆にて、畫解きせる珍本なり。

ふくざつしよ　英チャンバーレン氏舊藏　中本一冊　百圓
貞享四年の刊行にて、菱川師宣の筆になる古ひ繪本なり、神佛へ願ひかけ申事等十三條を、一條を十項となし、通俗的に圖解せるもの也。



契情雙盃
【稀本欄三頁參照】

女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

福神まつの内　羽川珍重畫　中本一冊　貳拾五圓
福神さんの松の内の遊びを描きたる戯畫にて、湯島天神女坂さかみや版なり、永田文庫本。

勇士名君繪紋合　元表紙元題簽　美本箱入　半紙三冊　百貳拾圓
寛保四年の刊行にして、西川派の繪にして、紫式部に源氏車、阿古屋景清に丸見る貝、等風俗繪に紋樣を合せる珍本なり。

百千鳥　赤松金鶏撰　大本箱入二帖　六百五拾圓
本書は喜多川歌麿の麗筆になる、和鳥の彩色摺になる繪本に狂歌を配せしもの、前後揃し初刷本にして世に稀なり。

汐干の都登　喜多川歌麿畫　彩色畫初刷美本　元表紙元題簽　桐箱入大本一帖　六百五拾圓
天明六年の刊行にて汐干狩の美人、美人貝合、貝づくしの彩色畫に狂歌を附したる繪本にして、幸尾氏舊藏本なり。

畫本虫撰　宿屋飯盛撰　帙入箱入美本　大本一冊　貳千圓
天明七年の初刷本にして、歌麿繪本中の傑作なり、本書は他に見さる美版にて天下の絶品なり、幸尾氏舊藏本。

一蝶畫選　幸尾文庫本　折帖大本　帙入一冊　百貳拾圓
英一蝶の彩色繪本にて印譜傳記を附せり、本書は狩野享吉氏舊藏本にて、保存極上の初刷本なり。

富岳寫眞　大形折帖　箱入一冊　八拾圓
弘化二年の刊行にして、寛政年間に島崎雲圃が登山實寫に彩色をなせる畫帖なり、小竹、淇園、艮齋、栗園等の序跋あり。

玳瑁龜圖說　美寫本　大本帙入四冊　貳百五拾圓
天保十二年に金子直吉氏が、苦心になれる玳瑁龜の解說本にて、精密なる圖畫を以て櫛、笄、釵等の製法を詳記せる珍籍なり。

當世かもし雛形　元表紙元題簽　上本半紙一冊　八拾圓
安永八年の刊行にして、當時の女の髮の品々を寫せる風俗史なり、作者は洛東の安部玉腕子。

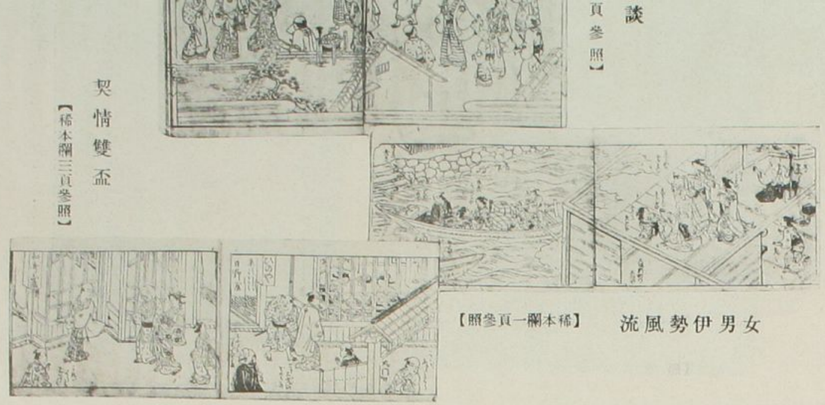
芳菊帖　大本畫帖　帙入一冊　六拾五圓
本書は越後の畫人飯島文常氏の筆になれる菊の彩畫繪本にて、越後高岡に於て發行せる稀觀本なり。

朝顔叢　四時菴形題　半紙二冊　百貳拾圓
文化十三年の刊行にして、朝顔異鉢百品を琴鱗の寫せる彩色繪本に、解說せる初刷美版の稀本なり。

能花傳書　木活字本　八冊合本　大本二冊　百參拾圓
本書は應永年間、能樂に堪能なりし觀世元清の著述せるものにして、斯道の寶典なり。四卷六卷二冊は寫本なり。

能辯惑大全　大本五冊　百貳拾圓
本書は元文五年の刊行にして、能に關する衣裝、持物、能の順序を詳細に說明せる稀觀本なり、著者は攝陽の高田平七氏なり。

諧風水塵　大本美本　帙入二冊　貳百五拾圓
元祿四年の刊行にて風水の俳文俳諧を集めたるものにて、元祿俳諧史研究の好資料たり、一時軒風水は鬼貫、來山、羊素と親交あり。



談

【頁參照】

契情雙盃

【稀本欄三頁參照】

女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

蓮の實　半紙一册箱入　貳百五拾圓

元祿四年の刊行にて、紅葉庵賀子の詠める『蓮の實におもへはおなし我身哉』の句により題せるもの、西鶴、才麿、來山等を輯めたる稀觀本なり。

万句合　百四十八枚半紙綴四册　貳百圓

本書は文化五年より十三年頃までの万句合にして、選者は守蘭亭敢月にして世に流布せるもの稀なり。

海國兵談　林子平著木版元裏紙大本三册　千圓

寛政三年の刊行にして當時の海防戰備を論究したるものなるも幕府はその異說を唱ふるを罪し刻板を沒收す爲に此書存するもの極て稀也。

泰西輿地圖說　栃木龍橋譯半紙六册　八拾五圓

本書は十七卷、六册にて歐羅巴の諸國に就て隣界河水風土屬國等を記せり、鳩谷九平の序あり、著者丹波福知山城主にして稀本なり。

唐船蘭船長崎入船便覽　三ッ切横本　貳拾圓

本書は大阪藥問屋主人石田氏が天保十三年に編輯せし、來舶の着船を寛水十八年より天保十二年迄明記せしもの、尙嘉永三年迄書入ある珍本なり。

和漢古今泉貨鑑　栃木龍橋著美本帙入半紙十二册　八拾五圓

寛政十年刊行の古錢譜にて、即ち古錢の面背摺形を刻したる圖を挿みて、寸法重量に至るまで詳記せり、著者は丹波福知山の城主なり。

尾形流畧印譜　雲母摺表紙中本帙入一册　參拾五圓

文化十二年の刊行にして、抱一上人の輯むる、宗達光琳等の印譜なり文晁自筆版下の序文あり。酒竹氏舊藏本

月花餘情後編妓閣秘言　戯笑閣戯笑元表紙元題簽箱入小本三册　百五拾圓

寛政年間の刊行にして、浪花島の内の情緒を綴りしものにて、大阪酒落本中の優なるものなり。

穿當珍話　八幡大名小本一册　參拾八圓

寛政七年の刊行にして、大阪酒落本にして、一名比言指南(クチナイ)と云ひ『片手桶つゞれの錦』等口合を附錄せり。

長者教　元表紙元題簽美本小本一册　六拾五圓

寛政十二年の刊行の浪花柏原屋佐兵衛の板行にして、大阪酒落本の稀觀本なり、著者は情々子。

百花評林　探花亭主人小本一册　參拾圓

延享四年の刊行にして、大阪の遊場所を狂詩にて評せしもの酒落本の優なるものなり。

草木芝居化物退治　小本一册　六拾圓

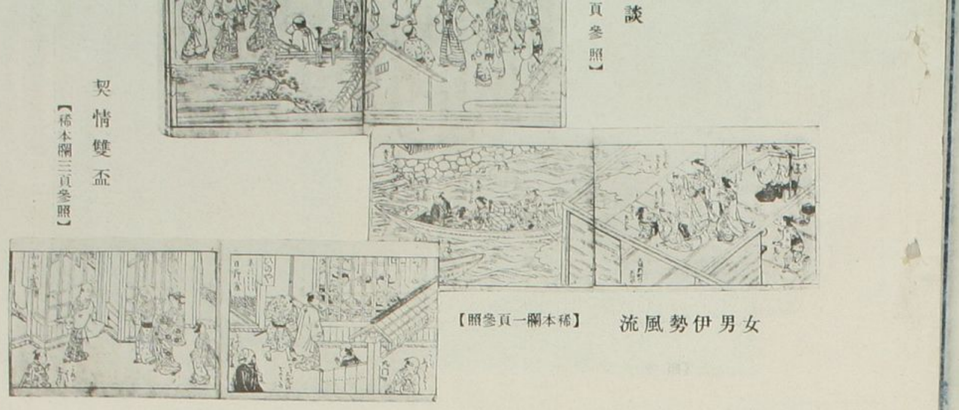
本書は安永九年の刊行にて、泉花堂三蝶本名十六兵衛の作になれる、酒落本にて日本小說年表にも觀ざる稀本なり。

見た京物語　二鍾亭牛山小本一册上本　四拾五圓

天明元年の刊行になれる京都の風俗人情なとを簡明に記し、菱川春童の挿繪ある酒落本なり、二鍾亭牛山は『木室七左衛門卯雲』なり。

叶福助略綠記　振鷺亭主人小本一册　參拾八圓

寛政五年の刊行にて、福助さんを題材とせる酒落本にて小說年表にも見ざる稀觀本なり。



談

【稀本欄三頁參照】

契情雙盃

【稀本欄三頁參照】

女男伊勢風流　【稀本欄一頁參照】

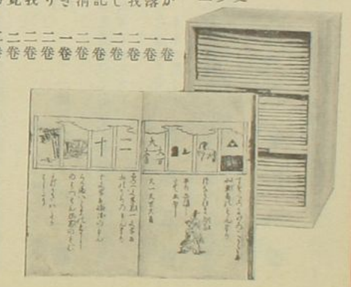
舞の本

英チャンバーレン舊藏本
大本箱入　美版三十四册

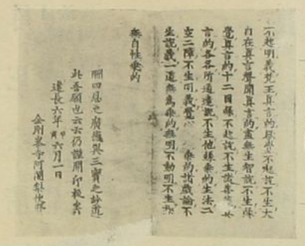
金二千圓

幸若舞の草紙本にして、古代歴史小説の隨一にて古雅なる繪畫を多數挿入せる稀覯本なり、本書は三十六番の内左記二十三番あり。

一卷　硫黄が島
一卷　いるか
一卷　夢あはせ
一卷　四國落
二卷　元服曾我
二卷　小袖曾我
二卷　和田酒盛
二卷　ときがし
一卷　木曾願書
一卷　清し げ
一卷　未來記
一卷　笛の卷
一卷　かぶき
一卷　堀川夜討
一卷　あいつもり
二卷　まんちう
二卷　夜討曾我
二卷　百合若大臣
二卷　文覺
二卷　したきり雀
二卷　つるぎさんだん
一卷　八島



高野板の隨一にて奥附は



(元)起明義覺王其十方佛界不起故不生大自在菩薩摩訶菩薩無生智故不生無量菩薩摩訶薩十二因緣不起故不生菩提薩埵如實知空三障不生明義覺　參拘攤論下生覺義一道無為參拘攤明不動明不生無無自性參拘

刪四品之後攝第三寶之妙理
共各顯也云云拘攤開合終者
建長六年甲寅六月一日
金剛峯寺同園梁快賢

住心論

高野山板　極美本
十册　壹千圓

一卷に　建長七年臘月六日
高野山檢校執行
法橋上人位實眞

五卷に　正開此十住第五之印板
檢校執行　浬俊

六卷に　正嘉三年三月三日
高野山快賢

八卷に　正開此十住第八之印板
檢校執行　惠深

九卷に　正開此十住第九之印板
檢校執行　眞拝

十卷に　建長六年甲寅六月一日
金剛峯寺同園梁快賢

重り寶

牛紙一册箱入

貳百五拾圓

趣味展覽會陳列品目錄

人形

上本町七　山口吉郎兵衛氏

一嵯峨人形　鶉持童子
一同　布袋童子
一同　大名獅子舞
一同　獅子カツギ
一同　初午遊童兒
一同　猿曳
一同　孟宗
一木目込人形　雞合童兒
一同　蝶々踊
一木目込人形　葵祭行列
一同　蘭陵王童兒
一同　昔噺
一同　町女房
一伊豆藏人形　ベカコ立童子
一同　牛乘童子
一同　長崎拳
一同　子守童兒
一同　棟上童子
一衣裝人形　安永風俗女
一會津東山湯泉の初音笛
一三春の張子達磨
一鹿兒島張子同
一高　知同
一松本目なし同
一會津張子同
一熊本張子同
一高松張子同
一靜岡張子同
一京都壬生同
一天草張子同
一名古屋張子同
一柏崎張子同
一大阪箔押同
一同　痘瘡同
一會津若松起姫
一松本張子黃達磨
一鴻の巢達磨
一甲州土製同
一富山同同
一東京今戸同同
一長崎古賀同同
一三春金時達磨

一山崎の土猪
一大阪今宮の土雞
一大阪天王寺猫の門の猫
一同　石神堂の土牛

古鈴、糸印

春日出　清海復三郎氏

一內侍所神鈴及御鈴の緒
一春日社大黑鈴
一減金時代鈴
一鍍金古鈴
一各種古鈴百參拾個
一糸印百貳拾個

短冊

玉出　森繁夫氏

一詠史(楠公)短冊帳
加納諸平　正成贈三位
渡忠秋　楠正成卿
萩原廣道　正成卿
近藤芳樹　楠公
深見篤慶　楠公
敷田年治　楠公
野矢常方　楠公櫻井のわかれの

一松唐草双

泉

一和漢歷代古
一支那古泉
一和銅開珍錢
一錢型　拾參

和漢古

內淡路

一歙州銀星研
一歙州石硯
一端溪石研
一端溪石研
一龍尾研
一端溪小古研
一澄泥研
一澄泥研
一宋研
一青銅古研
一古備前研
朝鮮征伐來朝セ

十二行

圖書館週間（大正十四年十一月八日至十四日於大阪府立圖書館郷土資料陳列場）

趣味展覽會陳列品目錄

大阪圖書館協會

矢立

八幡筋　金川榮吉氏

中啓に金の面（象牙）　木彫
竹に蝸牛（正次作）
龍に眼　銀金具（壽光作）
肉　蒔絵（象谷彫）
差　四分一　直翁作
顕芋に蝸牛　象牙
鬼に金棒　木彫
彩色佛三體　好山作
日の出に浪　銀象牙
雲　銀ミ四分一
樒　象牙
人に鳥　象牙
槌に七福神　象牙
かたばみ紋散らし　四分一
七ツ瓢簞　象牙
鹿角　象牙（竹善作）
笛に龍　銀ミ銅
波立　銀ミ四分一
斯根に鼠　銀ミ四分一
大刀　銅
鐵　銀ミ四分一
具足櫃に鎧　角ミ木彫三輪作
唐草　象牙
漁夫ミ支那筆　四分一、鍍金
古代太刀と鏡　象牙
如意式煙管筒　ウニコール
羅浮仙人　象牙
總瓶に朝顔　銀
七子々　竹材（柳齋作）
顔　清水焼
紋散らし　清水焼
葵蓮　同上
蹴鞠模様　同上
胡蝶模様　（寶山作）
四君子模様　同上
梅花模様　同上
三方に鏡餅ミ鼠　木彫（友忠作）
御所車模様　同上
箙　象牙
鶴　象牙
彌陀佛　象牙（蘭子作）
阿弗と雛に稲　銀ミ銅（好山作）
柿に蜂　象牙（宣德隣海亭作）
矢柄に貝　象牙
たぬき（婦人持）　蒔繪
しの　象牙（懷干齋作）
ら　象牙木彫（吉友作）
老　象牙
鉞ミに猿　象牙
楓ミ蟬　龍（金鑲嵌）ミ
二霊　銀
臺所道具　五條政
俱利伽羅　象牙
水焼　堆黑
清　菊の地紋

同　菊唐草
同　藤模様
同　紅葉散らし
同上　菊の葉散らし
同上　同
同上　木彫
雨傘ミ下駄　堆朱
同上　人物樓閣の圖
如意　象牙、木彫
柾目式矢立　銀金具
七夕糸卷ミ駄牛　象牙（懷玉齋作）
文珠ミ蓮　堆黑（一光作）
菖蒲　銀（光代紹美作）
老人　象牙
鶏　象牙
へちまに蛙　木彫に蒔繪
一草に蟲　桃葉作
一桐唐草　象牙（直民齋作）
一魚籠ミ釣竿　嵌ミ銀村に金鑲
一觸髏に卒塔婆　象牙
孔雀　象牙
波斯矢立　眞鍮に銀鑲嵌
秋草　木彫蒔繪（大形）（國齋作）
短刀　銀金具に浪の彫刻
春日燈籠に銀の鳩　鐵
竹に雀　象牙（一虎作）
二霊　象牙
苦船に鵜　鳳凰に龍の彫刻
立雛に粽　銀ミ四分一
鐙通し　銀ミ四分一
差　浪に龍の刻
剛刀に扇ミ剛扉　木彫（笠善作）
登り龍　十三次の彫刻五
差　大原作美作）
蓮根に蟹　銀（後藤光美作）
雲に鶴　竹材　秋草蒔繪
香炉ミ軸に鶯　角材（谷齋作）
蓮干分に鮭　銀
香炉ミ軸に鶯　象牙（正次作）
月に兎　鐵ミ銀
白狂矢立　象牙
羽子板に手鞠　四分一
栗の實ミ猿　鹿角　峨江作
たそがれ　堆黑　蝙蝠の彫刻　象谷作
秋草に月　象牙　光齋作
澪漂に蟹　木彫　吐龍齋作
秋の七草　象牙　公圓齋作
香炉　宣德　龍の彫刻
大形矢立　直鑑

酒杯

國分町　星田巴東氏

薩摩焼　染川　櫻花模様
同　有田焼　池田　菊花模様
長崎焼　無地
同　大黒式
耶馬溪焼　濃青色（耶馬溪）
同　耶馬溪無天下「耶馬溪」
高取焼　無地
萩焼　片口式
出雲焼　松ノ實式
同　太黒大社
屋島焼　蟹「屋島」
「陶濱」「屋島古戰場」
同　時ならぬ花や紅葉なみかは　「屋島」
吉野初瀬つゝふと　「相撲」
さなられいと
理平焼　山水栗山公園焼
備前焼　無地ニ蝶
伯耆大山焼　秋草ニ「大山」
同　櫻瓜　「因久山」
因幡久山焼　無地　「小谷製」
小谷焼　柘榴　「小谷製」
因幡角丸焼　若松
明石焼　人丸肯像「人丸」
出石焼　菊
播津三田焼　魚藻
同上　松葉
牧方焼　片口式「笹而焼」
笹而焼
大櫻の宮焼
阪
大阪吉向焼　文政八年
同　楽焼　竹
異服焼
大蔵明山製　櫻
大阪泉陶製　「千里」「城士焼」
河内城士焼　「壽東郷書」「道八」
京都道八焼　六紋
五條政焼
栗山焼　杜若
五條阪焼　松　初代「竹景」

京都焼　壽六角「福」
永樂焼　赤金繪
兵庫焼　冠易　御大典記念
近江信樂焼　栗　鬼念佛
石山焼　月すかし
同　卷すかし
大和赤膚焼　俵式
伊勢阿漕焼　浪ニ千鳥
名古屋大山焼　七賢人
三河岡崎甲山焼　葵　「甲山」
「志戸呂」
遠志戸呂焼　「しつはた」
駿洲鹿機製　萩猪
静岡　富士行者紀念
富士焼　十一名合作
花ニ千鳥「すみた川」
隅田川焼　古暦逢曆に張てまとい打り　小波
東京焼　槌式
同　谷焼　赤繪
同　青繪
同　山水
同　馬
磐城相馬焼　蟲蹄天富
佐渡焼　山水彫（神懸）
小豆島焼　青磁（漢陽）
朝鮮漢陽焼　草花
和歌浦焼　朱泥
同　支那焼　朱泥

曲玉及其他

上本町九　田中楓谷氏

計六十五篇

勾玉
古鈴。石帶。舍利壺等
石器。玻璃器。古銅器等
古鏡。金環。石鏃等
共計約百點

内外小箱類

石ヶ辻　岡田伊三次郎氏

一宇治橋茶箱　岡田應瑞製繪（京都）
四季之繪茶箱　森寛齋畫（京都）
燒袋之繪小策　青々光一畫（東京）
蓮之畫小文庫　美人畫小文庫（京都）
松竹梅之繪小引出　萩蒔繪小筥
紅葉蒔繪二帖箱　青貝
梨地小重箱　木村秀雄作（京都）
卯月請繪小重箱　（東京）
柿田小引出　池田泰眞作
鐵刀木蒔繪小箱　（東京）
色漆、青海波　淺井忠圖案、杉
塗分之筥　林古香作（京都）
花菱蒔繪香箱　（京都）
翡翠小筥　紋入
梨地丸紋フシノ粉筥　遠羅
柳月　楊弓箱入　蓋裏役人名列記
鳳凰紅葉　小判形
柴クリヌキ小筥　弓矢添
藤蒔繪小箱　付
山形小箱　出
銀製金嵌　其二
象牙小箱　長
銅版畫カバン小箱赤壁ノ圖（支那）
竹彫手付筥　（朝鮮）
紫檀印筥　（支那）
同　（支那）
四方青貝小形筥　（支那）
笹繪小カバン　（支那）
七寶卷形小箱　（支南）
青貝バラ狀繪箱　（シヤム）
彩色繪小筥　（印度）
木彫書狀箱　（印度）
同　横　（印度）
鐵製　金嵌
八角　金嵌
彩畫カルタ添　（ペルシヤ）
カルタ入
豪　猪　小箱　（南洋）
竜　甲　小筥　（露西亞）
孔雀石箱　（露西亞）
牛角硝子酒器添　（埃太利）
牛身美人畫黑塗箱　（獨逸）
金形製箱　（獨逸）
家屬　（瑞西）
オルゴール入
切子硝子箱　（白耳義）
同　四方形　（英吉利）
ダービー陶製筥　（英吉利）
蒔繪、日本加工　（佛蘭西）
同　足　（佛蘭西）
七寶美人繪　（佛蘭西）
三角小箱　（佛蘭西）
銀製小箱雲雀之圖　（伊太利）
象牙小箱鹿之圖　（佛蘭西）
紅硝子箱　（佛蘭西）
小皮白鼠　（佛蘭西）
鍍金瑠璃小箱　（佛蘭西）
小道具入　（佛蘭西）
時代筥　（西班牙）
木彫　（亞弗利加）
大小家香水瓶二ケ付筥　（米國）
銀透シ筥　（不詳）
以上外國

小繪馬

櫻井　木村雄三氏

一鳥居　伏見稻荷に
同　河内附近の
一劍の繪馬　河内不動尊に
一麥藁鳥居の繪馬　城崎温泉神社に
一馬の繪馬　東一般の方の者
一高砂の繪馬　大和地方の
一寶珠狐の繪馬　今宮廣田神社に
一醇の繪馬　痔疾平癒の祈願に
一馬の繪馬　東京地方の
一蟹の繪馬　稲荷神社に
阿波日峯神社に
手向山八幡宮　阿波地方に
一奉納の繪馬　小繪馬の始なり
一猪の繪馬　名古屋熱田神社
十二支繪馬の
一虎の繪馬　四ノ宮戎神社に
一鶏の繪馬　京都附近の紀州
一小鳥の繪馬　熊野にも
一相撲の繪馬　淡路地方の
丹波古市附近の
土佐下田にも
一鬼の繪馬　武州鬼鎮神社惡
魔除の
一入浴母子の繪馬　奈良地方にて人
奈良地方の小兒
の浴嫌ひの小兒
の爲め神佛に
一乳の繪馬　河内地方に
如來へ乳汁を
一兎の繪馬　静岡地方に
十二支のうち
一足の繪馬　馬ヘギ繪
一草鞋の繪馬　服部天神に脚氣
病平癒の祈願
岸和田鎮地藏の
京都にも
一蛸の繪馬　青疱瘡神除けミ
にして家々の門口
一伊勢の神繪馬　伊勢地方で云ふ
山の神

大阪風景版畫

江戸堀北五　鮫島廣太郎氏

一歌川貞秀　大阪名所　一覽九枚續キ
同　浪花大淡　一覽三枚續キ
中川山長　大淡一覽
一葛飾北齋　摂津安治川口天保山
名橋奇覽ノ内
一同　大阪天保山
本朝名所ノ内
一歌川廣重　順慶町夜景名所ノ内
一同　淺花名所ノ内
一同　大阪安治川口
日本港盡ノ内
一同　摂津安治川口
山海見立相撲ノ内
一同　摂住出見國晴ノ内
六十餘州名所圖會ノ内
一同　泉州堺なにはやの松
一二代歌川廣重　諸國名所百景ノ内
一歌川貞廣　大阪天神橋　天滿橋
一八島五郎　浪花風景ノ内
一同　大阪天滿宮祭禮之圖
一同　天保山勝景一覽表紙
一同　大阪天保山夕立の景
天保山勝景一覽ノ内
一同　大阪安治川口新山石橋
一長谷川貞信　長町巳門堂
浪花百景ノ内
一同　天神橋夜景
一中島芳梅　四天王寺
滑稽浪花名所ノ内
一歌川國員　二軒茶屋風景
浪花百景ノ内
一長谷川小信　千代橋の景
浪花名所ノ内
一銅版畫　浪花名所
一曉鐘成　大阪川口大さらへ繁榮
たから船　二枚續キ
一筆菅不詳　大阪新町夕陽の賑ひ
浪花名處消案内
一松川半山

肉筆浮世繪

末吉橋通五　岡本喜兵衛氏

一菱川師宣友竹　物思ひの圖
一宮崎友禪　小町觀瀧圖
一菱川師房　讀書美人圖
一鳥居派　（略譜）
伊政物語誓く
梅花三美人圖
鐘馗仲遊女圖
立姿髮の圖
一奏派の圖
彈琵琶之圖
義家公宗任對面
一鳥居清信　雪中歩圖
一笹齋文調　婆娑ミ舞姿圖
一英一蝶　遊女吉原道行圖
一懷月堂安度　觀月美人圖
一宮懷月堂派　音樂夢見圖
一鳥居清信　松風村雨圖
一四川道信　寶盛毛染圖
一傳石川豐信　伊勢物語圖
一傳古山師繼　寢姿人物圖
一傳古山師政　鬚ぬきの圖
一奥村政信　後面之圖
一田村水鷗
一宮川一笑齋春
一傳土佐光茂
土佐光信
一菱川師宣友竹
一菱川師房
一鳥居派
一山崎女龍
一英一蝶
一懷月堂安度
一宮崎友禪
一鳥居清信

趣味展覽會陳列品目錄

人形

土本町七　山口吉郎兵衛氏

一嵯峨人形
同　鶏持童子
布袋童子
大名獅子舞
獅子カツギ
一同　初午遊童子
猿曳
一同　孟宗
一木目込人形　雞合童子
一同　蝶々踊
一木目込人形　菜祭行列
一同　蘭陵王童子
一同　昔噺
一同　町女房
一伊豆藏人形　ベカコ立童子
牛乗童子
一同　長崎拳
一同　子守童子
一同　棟上童子
一衣裝人形　安永風俗女
一同　町女房乳母
一同　木津勘助
一同　織衣左褄
一同　丹前六法委
一同　正田鹿の子若衆
一似顔人形　八代目團十郎
一芥子人形　業平東下り
一縮緬人形　飛だち跳たり
一宇治人形　宗匠
一香人形　蹴鞠
一奈良人形　猩々（初代松壽作）
一古清水燒　大名行列
一手鞠細工　猫

鉢山用古銅器

築港　鹿島傳藏氏

一七堂伽藍
一各種の家屋
一各種の人物、動物
一橋紅
一舟筏

共計約百三十個は五具足師中尾宗貞及び長谷川某等の鑄造

ヒゲ德利其他

内淡路町二　山田新月氏

一白磁　鉛蓋附
一同　大形
一平形　鉛蓋附ウヅ巻
一同　備前色、菊形蓋附
一同　大形色變り、赤菊蓋附
一同　小平、唐木蓋附
一同　扁平長形、黑
一同　白、黑塗蓋附
一大　虎蓋附
一大　木二重蓋附
一大　黄色、黑蓋附
一大　長蓋附
一大　色入、扁平、中
一中小形　平、黄色
一長形　中ノ小
一小　白
一小　褐
一小　青白

其他

一ビール呑　古代、和蘭製
一同　英國製　青象
一水呑　土耳其ギュタヒヤ製
一小瓶　和蘭製　白扁平
一平附水入　白青花形
一同　白磁、青模樣、蓋附
一香合　和蘭製　鱶蓋附
一德利　伊太利製
一同　英國製　角形瑠璃色菊花模樣
鷲漁製　鉛蓋附
一水指　白褐色、女王印
一德利　草津　姥ヶ餅主人製作

鄉土玩具と緣起物

鶴谷四ノ町　川崎巨泉氏

一八の戸木馬
一仙臺木の下藥師木馬
一福島の木馬
一柳川雉子車
一大隅の鋼平
一日向の鶏平
一名古屋獅子頭
一博多板獅子
一庄内板獅子
一信州八日堂蘇民將來
一太宰府の雁
一東京深川八幡獅子頭
一浦松の張子海老
一鹿兒島神宮の化粧箱
一福島の小芥子這子
一尾張大野の千石船
一高知の板船
一熊本の祝白ミ梓
一甲府の羽子板
一琴平の木彫達磨
一會津東山溫泉の初音笛
一三春の張子達磨
一鹿兒島張子同
一高　知同
一松本目なし同
一會津張子同
一熊本張子同
一高松張子同
一都岡張子同
一京都壬生同
一天草張子同
一名古屋張子同
一柏崎張子同
一大阪俗押同
一同　痘瘡同
一會津若松起姫
一松本張子黄達磨
一鴻の巣達磨
一甲州土製同
一富山同同
一東京今戸同同
一長崎古賀同同
一三春金時達磨
一金澤八幡起上り
一埼玉大六天、天狗起上り
一京都張子虎
一三春張子虎
一三春張子武者面
一倉吉の張子人形
一和歌山張子兎
一三宅島のネサンバ
一伊豆衣根島のジョーロンゴ
一高松土天神
一越後加茂人形の雛
一同　子守
一同　馬のり
一鶴岡人形おほこ
一同　馬のり大黑
一佐賀土人形　子供
一岡山練物人形
一仙臺堤人形　大夫
一同　猪のり金時
一同　不淨人形
一仙臺古製堤人形娘
一同　或鯛のり
一同　子供
一同　龜持子供
一長崎古賀人形子守
一同　兄弟
一越後新發田人形子守
一福島張子蠶姫神
一弘前土人形イツコ
一同　人形笛
一高松土人形　鯛或
一金澤土人形　力持
一大阪今宮人形
一義士人形
一岐阜美江寺の土鈴
一柳津虛空藏の土牛
一英彦山の土鳩
一鎧路音別土鳩
一靜岡土鳩
一甲州鳩
一登別溫泉鳩
一別府血の池地獄鬼笛
一筥崎のネブリ人形
一伊勢山田の土鈴
一長崎古賀人形馬
一同　猫
一同　猿
一同　狐
一同　伏見人形羊
一同　でんぼ
一京都練物鯛鉢
一住吉千疋猿
一同　二疋猿
一木の葉猿雌雄
一同　古製猿
一御來屋高麗狗
一宇都宮土狐
一仙臺土狐
一名古屋土狐
一和歌山の瓦猿
一同信尾稻荷の土馬
一東京柴久の土猿
一同九郎助稻荷土狐
一東京口入稻荷土狐
一同　柳森紙子狸
一同　淺草小鳩
一奈良手向山板馬
一同　木彫鳩
一奈良の土犬
一岡崎の五色馬
一三州の赤馬
一金澤の土虎
一武藏大宮の土蛙
一東京丑紅の牛
一尾張常滑船笛
一伊勢津の俵牛
一弘前の土犬
一花卷の土猫
一山崎の土猪
一大阪今宮の土雞
一大阪天王寺猫の門の猫
一同　石神堂の土牛

古鈴、糸印

春日出　清海復三郎氏

一内侍所神鈴及御鈴の緒
一春日社大黑鈴
一鹿金時代鈴
一鍍金古鈴
一各種古鈴百叁拾個
一糸印百貳拾個

短冊

玉出　森繁夫氏

一詠史（楠公）短冊帳　正成贈三位
渡忠秋　楠正成卿
萩原廣道　正成卿
近藤芳樹　楠公
深見鶯陵　楠公
敷田年治　楠公
野矢常方　楠公櫻井のわかれの
木原盾臣　かた二
平塚飄齋　寄楠卿述懷
師岡正胤　詠史の中に
秋元安民　いにしへの（長歌）
松尾たせ子　楠正成主
高橋泥舟　楠公の御まつりに
井上頼圀　奉る歌
鈴木重嶺　楠公
倉田績　贈正三位正成の墓所にて
楠公子に別る、
かたに
一浪華歌人短冊帳
加藤磐齋　立春
下河邊長流　下ツ契沖
渡谷信任　むめかゝは
藤田友閑　朝鶯
岡西惟中　卯花似月
野田忠蔭　蟬
五井守任　七夕橋
三宅正名　落葉
有賀長伯　秋はなを
富永芳春　桑の御杖に
三輪希賢　松島や
郭公　久しく絶たる
海北若冲　寒草風
俯似雲　河井立秋
加藤景範　橋上秋月
中井履軒　夏釋教
入江昌喜　いにしへを
中井竹山　徑菫
加藤景範　月前露
中井履軒　やまこうたは

扇子

高津　永田磐洲氏

一大窪詩佛七絶
一菊池五山七絶
一細合半齋讃賛
一池内陶所七律
一知紀、秋巖、雲處、小華、柳圃詩讃合作
一菅原白龍梅竹讃賛
一俯五岳七絶
一頼聿庵、篁庵讃賛
一大沼枕山七絶
一秋月種樹七言二句
一木蘇岐山七律
一寺四易堂七絶
一杉溪六橋詩讃

日本古鏡

高石　山川七左衛門氏

一瑞花鸞鳥鏡　藤原時代　徑七寸
九ヶ所出銅　土中古
伊勢國某寺出土
一菊花双雀鏡　鎌倉時代　徑八寸三
分五厘　青銅傳世
京都某社傳來
一菊池五山七絶
一細合半齋讃賛
一池内陶所七律
一知紀、秋巖、雲處、小華、柳圃詩讃合作
一菅原白龍梅竹讃賛
一俯五岳七絶
一頼聿庵、篁庵讃賛
一大沼枕山七絶
一秋月種樹七言二句
一木蘇岐山七律
一寺四易堂七絶
一杉溪六橋詩讃
一桐竹鳳凰鏡　室町時代　徑七寸
五分　白銅
至尊御拜御鏡傳世
一龜甲紋双鶴鏡　南北朝時代　徑七寸
七分　青銅
傳世古
一桐竹鳳凰鏡　室町時代　徑七寸
五分　白銅
至尊御拜御鏡傳世
一桐紋双鶴鏡　室町時代　徑七寸
五分　白銅
至尊御撫物御鏡傳世
一双鸞八稜鏡　藤原時代　徑四寸
二分　白銅
傳世古
一花枝双鳥鏡　藤原時代　徑三寸
七分　青銅
傳世古
一松喰鶴方鏡　藤原時代　徑三寸
五分　白銅
傳世古
一秋草双雀鏡　藤原時代　徑三寸
七分　白銅
傳世古
一瑞花鸞雲八稜鏡　鎌倉時代　徑四寸
四分　白銅
傳世古
一瑞花鸞雲五花鏡　鎌倉時代　徑三寸
八分　白銅
傳世古
一菊紋双雀鏡　鎌倉時代　徑四寸
白銅　傳世古
一檜垣菊蝶鳥鏡　鎌倉時代　徑三寸
六分　白銅
傳世古
一瑞花鸞雲六稜鏡　室町時代　徑四寸
一分　青銅
傳世古
一佛像双鶴鏡　室町時代　徑三寸
八分　青銅
傳世古
一浮線綾紋長方鏡　室町時代　徑三寸
七分　青銅
傳世古
一松唐草双鶴鏡　室町時代　徑三寸
六分　青銅
土中古

泉貨

羽衣　本山彦一氏

一和漢歷代古泉　貳百九拾壹種
一支那古泉　六拾八種
一和銅開珍錢　叁個
一錢型　拾叁個

和漢古硯

内淡路町二　醫學博士濱川玄洋氏

一歙州銀星硏　銘玉蘭
一歙州石硯　歙州白帶硏　銘岫巖
一端溪石硏　銘商露　伊藤公爵舊藏
一端溪石硏　銘雙鳳
一龍尾硏　銘龍璧
一端溪小古硏　備前侯舊藏
一澄泥硏　銘鯉池
一澄泥硏　銘女香
一宋硏　銘白雲
一青銅古硏　銘如玉
一古備前硏（模倣歙硯）
朝鮮征伐ノ際加藤清正ノ俘虜トシテ來朝セシ硯工某備前燒ノ窯ニテ造リタル者
一志野硯　銘清涼　尾張志野產

水入

北堀江通二　大田米次郎氏

一平戸　菊慈童
一備前燒　兜
一伊萬里燒　浪に日の出
一清陶　魚籠
一平戸　富士卷龍
一瀬戸　巴瓦福兒
一吉向　丑
一竈不詳　馬
一平戸　卷物
一舞子燒　お多福
一淡路府内燒　福助
一出雲長岡燒　兩面叉大黑
一清水燒　布袋
一常滑　軍配
一瀬戸　扇地紙
一平戸　獅子
一清水　扇面梅花
一平戸　碁盤軍配
一瀬戸　團扇
一賤機燒　巾着
一伊萬里燒　竹筒浪に千鳥
一長岡燒　猿
一伏見樂燒　俵鼠大福帳
一色繪平戸　壽老
一淡路三平燒　布袋
一丹部燒　蛤浪
一伏見樂燒　唐模樣角形
一栗田燒　揚羽蝶
一瀬戸　貝
一燒不詳　仙人圖
一明石燒　竹に雀
一燒不詳　蒡
一瀬戸　菊二輪
一燒不詳　狐
一京燒　曲玉
一萬古有節　漁入物
一星野燒　犬唐子
一薄色備前燒　鮟
一平戸　昇龍
一備前燒　獅子
一五條燒　鼠
一萬歷寫　公子疑像
一淡路燒　鳥
一樂山燒　鷺鷺
一備前燒　兎
一姫路燒　水鳥
一備前燒　猫
一五條燒　大黑
一砥部燒　白獅子
一志戸呂　貝に蟹
一白磁　丹
一清陶　水牛
一龜壽作　川蟬
一平戸　卷日蛇
一平戸　犬
一瀬戸　蝦
一常滑　象
一平戸　翫具
一平戸　唐笠梅擬樣
一八代燒　福良雀
一清水燒　猫
一五條燒　唐四扇
一瀬戸燒　犬
一清水燒　唐扇
一出雲善四郎　牡丹
一源内燒　牡丹
一淡路庄　松竹梅
一京燒　苦船
一瀬戸　苦船
一伊萬里　赤繪角
一伏見樂燒　川蒸煮
一御深升燒　梅花角
一不詳樂燒　櫻花
一伊萬里燒　お多福
一備前燒　猩々桃

一唐軍艦　草津ノ姥ヶ餅主人製作

郷土玩具と縁起物

鰻谷西ノ町　川崎巨泉氏

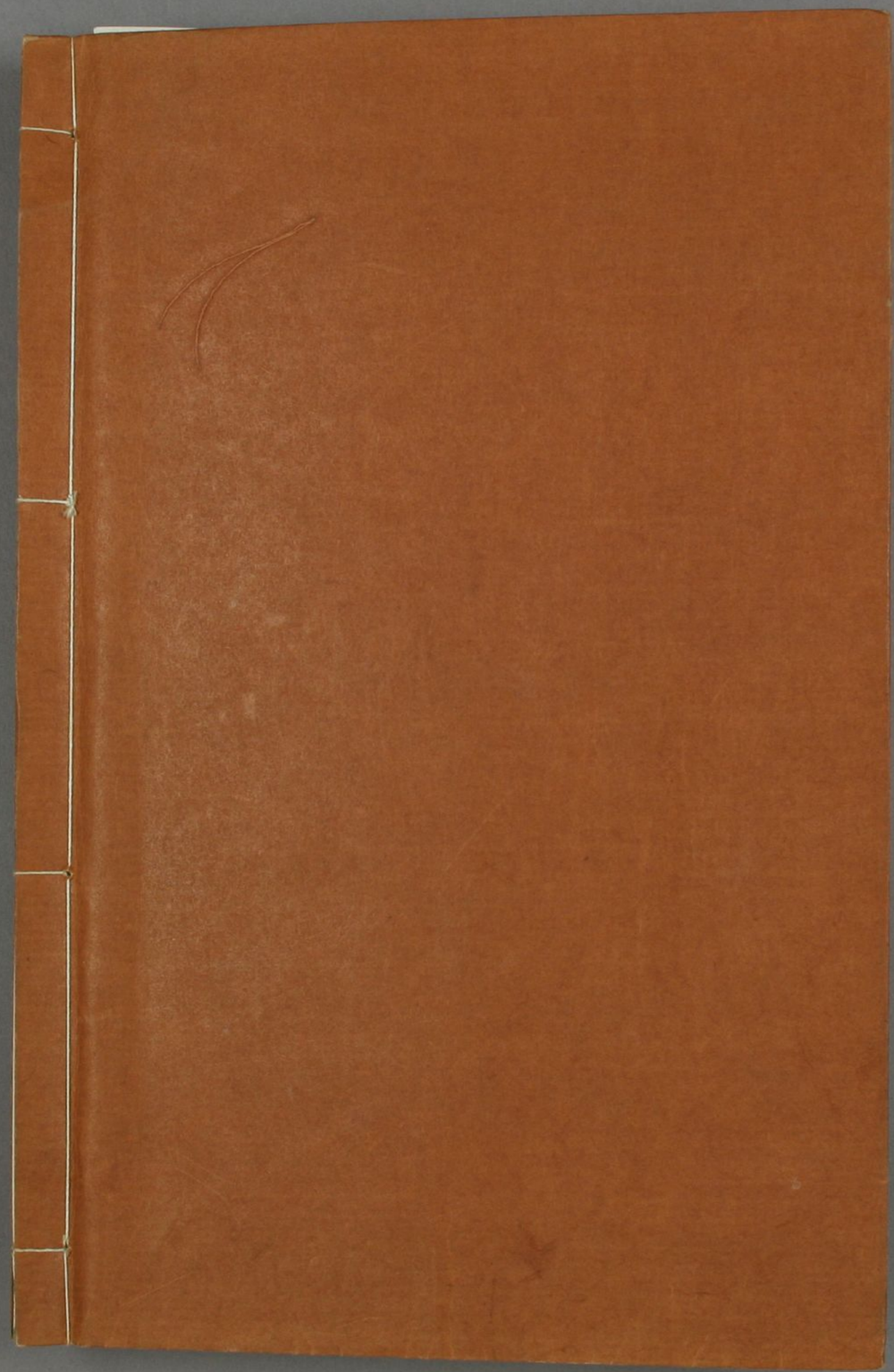
一八の戸木馬
一仙臺木の下藥師木馬
一福島の木馬
一柳川雉子車
一大隅の鯛車
一日向の鶉車
一名古屋獅子頭
一博多板獅子
一庄内板獅子
一信州八日堂蘇民將來
一太宰府の鶯
一東京深川八幡獅子頭
一濱松の張子海老
一鹿兒島神宮の化粧箱
一福島の小芥子這子
一尾張大野の千石船
一高知の板船
一熊本の祝臼ミ杵
一甲府の羽子板
一琴平の木彫達磨

一同　古墳狐
一御來屋　高麗狗
一宇都宮　土狐
一仙臺　土狐
一名古屋　土狐
一和歌山の　瓦猿
一同信尾稲荷の土馬
一東京柴又の　土猿
一同九郎助稲荷土狐
一東京口入稲荷土狐
一同　柳森親子狸
一同　淺草小鳩
一奈良手向山　板馬
一同　木彫鳩
一奈良の　土犬
一岡崎の　五色馬
一三州の　赤馬
一金澤の　土虎
一武藏大宮の土蛙
一東京丹紅の牛
一尾張常滑船笛
一伊勢津の俵牛
一弘前の土犬
一花卷の土猫

一桐竹鳳凰鏡　室町時代　五分白銅　徑七寸　傳世古　至尊御拜御鏡ト傳フ
一桐紋双鶴鏡　室町時代　五分青銅　徑七寸　傳世古　至尊御撫物御鏡ト傳フ
一双鸞八稜鏡　藤原時代　二分白銅　徑四寸　傳世古
一花枝双鳥鏡　藤原時代　七分青銅　徑三寸　傳世古
一松喰鶴方鏡　藤原時代　五分白銅　徑三寸　傳世古
一秋草双雀鏡　藤原時代　七分白銅　徑三寸　傳世古
一瑞花鴛鴦八稜鏡　鎌倉時代　四分白銅　徑四寸　傳世古
一瑞花鴛鴦五花鏡　鎌倉時代　八分白銅　徑三寸　傳世古
一菊紋双雀鏡　鎌倉時代　白銅　徑四寸　傳世古
一檜垣菊蝶鳥鏡　鎌倉時代　六分白銅　徑三寸　傳世古
一瑞花鴛鴦六稜鏡　室町時代　一分青銅　徑四寸　傳世古
一佛像双鶴鏡　室町時代　八分青銅　徑三寸　傳世古
一浮線綾紋長方鏡　室町時代　七分青銅　徑三寸　傳世古

一白　室町時代　五分白銅　徑七寸　傳世古　至尊御拜御鏡ト傳フ
一清　壽
一亀
一平
一平
一八代
一清水
一五條
一清水
一瀬戸
一出雲善四
一源内
一淡路庄
一京
一瀬
一伊萬
一伏見樂
一御深升
一不詳樂
一伊萬里
一備前

十二行

以下全て
白紙

十二行